



MILBON Sustainability Report 2025

INDEX



Introduction

はじめに

- P03 トップコミットメント
- P04 会社概要
- P05 ミルボンのサプライチェーンについて
- P06 サステナビリティ基本方針
- P07 サステナビリティの考え方と推進体制
- P08 5つの最重要課題におけるKPIと進捗及び目標一覧
- P09 サステナビリティ推進のこれまでとこれから
- P10 サステナビリティにおけるテーマ別ハイライト



Materiality

5つの最重要課題

- P12 最重要課題1「美しさを通じた心の豊かさの実現」
- P15 最重要課題2「再生・循環型の生産・消費活動」・最重要課題3「人にやさしい調達活動」
- P18 最重要課題4「公正かつ柔軟な経営体制」・最重要課題5「働きがいのある職場環境」



Environment

環境への取り組み

- P21 ミルボングループ環境方針
- P22 気候変動への対応／水資源への対応／廃棄物や環境汚染への対応／生物多様性への対応
- P26 化学物質の安全な使用と管理／安全性、安定性／サプライチェーンマネジメント／生産活動を通じた取り組み



Social

人と社会への取り組み

- P30 ミルボングループ人権方針
- P31 人的資本経営について／5つの人材戦略の進捗と取り組み
- P34 地域社会とともに／文化・スポーツ振興



Governance

ガバナンスへの取り組み

- P36 ミルボングループ倫理行動指針
- P37 ガバナンス推進体制
- P38 リスクマネジメント
- P39 コンプライアンス



Objective Review

- P40 社外取締役レビュー



External Assessments & ESG Data

- P41 外部評価・社会との連携
- P43 ESGデータ 環境／人と社会

トピックコミットメント

美しさを通じて、 ミルボンが果たすべき未来への使命として

私たちミルボンは、『美しさを拓く。Find Your Beauty』をコーポレートスローガンに、美容室専売のヘア化粧品を中心とした製品を製造・販売する日本発のグローバルプロフェッショナルメーカーです。1960年の創業以来、「すべては、ヘアデザイナーとともに」という創業者・鴻池一郎の想いを原点に、世界中に存在する美容室・美容師を通じて、人々の美しい生き方に寄り添い続けることで、心豊かで持続可能な社会の実現に貢献しています。

ミルボンには、「すべては、ヘアデザイナーとともに」という創業の想いに加えてもう一つ、受け継がれている信念があります。それが「つぶれない会社を創る」という信念です。これは、「世の中の役に立っている会社は世の中がつぶさない」という確信に基づき、時代や社会の変化に対応したイノベーションの連続によって、常に世の中の役に立ち続けていくという志を表した言葉であり、私たちはこの信念を胸に未来への歩みを進めています。

この信念のもと、大前提として、持続可能な社会の実現のためには、企業そのものが持続可能でなければならないと考えています。そのためミルボンは、事業の成長と、気候変動をはじめとした様々な地球規模の課題解決の両面に向き合い続けています。

持続可能な社会を実現するために、対処すべき課題は数多存在しています。そうした中で、ミルボンでは、当社事業と関連性が高く、ステークホルダーの皆様からの期待と関心が高

い課題を評価し、「5つの最重要課題」として設定した上で、優先的に取り組みを進めています。推進にあたっては、サステナビリティ推進委員会が中心となりつつも、社員一人ひとりが課題意識を持って進められることを目指しており、取締役会の監督のもと、経営上の重要課題として全社で取り組んでいます。

私たちミルボンは、美容室・美容師を通じて、人々の美しい生き方に寄り添う美容の会社です。では「美容」に、そして「ミルボンにこそ」できる持続可能な社会への貢献とは何か。それはまさに私たちが最重要課題の中心に掲げる「美しさを通じた心の豊かさの実現」であり、美しさを通じて、一人でも多くの人々が心豊かになることによって、社会全体を持続可能な未来へと導いていくことです。美容にはその可能性があります。そして、その可能性を実現していくことが、ミルボンが世界中の美容室・美容師とともに果たすべき使命であると信じています。

各種最重要課題においては、設定したKPIに対して順調に推移しているものもあれば、現段階では成果が限定的なものがあるのも事実です。そうした中で、ミルボンは今後も、事業としての持続可能性も考慮しつつ、市場が求める価値を超えた製品とサービスを生み出しながら、たゆまぬ改善を積み重ねていきます。

「つぶれない会社を創る」——。私たちミルボンはこれからも、世の中の役に立ち続けることで持続可能な社会に貢献し、この創業以来の信念を実現し続けてまいります。



株式会社ミルボン
代表取締役社長
坂下 秀憲（さかした・ひでのり）

会社概要

株式会社ミルボン

設立	1960（昭和35）年7月
資本金	20億円
事業内容	ヘアカラー剤、ヘアスタイリング剤、パーマ剤、シャンプー、ヘアトリートメント、育毛剤、スキンケア・メイクアップ化粧品の製造及び販売（国内・輸出）など
売上高	513億円（連結）
従業員数	1,188人（連結） 2024年12月31日 現在
本社	東京都中央区京橋2丁目2番1号 京橋エドグラン
中央研究所	大阪府大阪市都島区善源寺町2丁目3番35号
イノベーションセンター	東京都大田区羽田空港1丁目1番4号 羽田イノベーションシティ ZONE B_2-1
研修センター	大阪府大阪市城東区中央2丁目15番14号
支店	国内8支店
営業所	国内11営業所
工場	ゆめが丘工場／タイ工場／中国工場
子会社	MILBON USA, INC. / Milbon Trading (Shanghai) Co., Ltd. / Milbon Korea Co., Ltd. / MILBON (THAILAND) CO., LTD. / MILBON MALAYSIA SDN. BHD. / MILBON VIETNAM CO., LTD. / MILBON SINGAPORE PTE. LTD. / Milbon (Zhejiang) Cosmetics Co., Ltd. / Milbon Europe GmbH
関連会社	コーセー ミルボン コスメティクス株式会社
駐在員事務所	台湾／香港／トルコ／インドネシア／フィリピン

報告の対象範囲ほか

報告対象組織	株式会社ミルボン
報告対象期間	2024年1月1日～2024年12月31日
制作部	株式会社ミルボン コーポレートコミュニケーション部

コーポレートスローガン

美しさを拓く。Find Your Beauty

経営理念

ミルボンは、ヘアデザイナーを通じて、美しい生き方を応援する事業展開をします。
美しい生き方、美しい髪は人の心を豊かにします。
豊かな心は文化を育みます。文化を大切にする社会は平和をもたらします。
ミルボンはそう信じて事業展開を推進し、美容市場、ひいては世界の国・地域に貢献します。

事業ドメイン

ミルボンは、美容室専売のヘアケア製品や化粧品、美容室で使用されるトリートメント・染毛剤などを製造・販売する化粧品メーカーです。

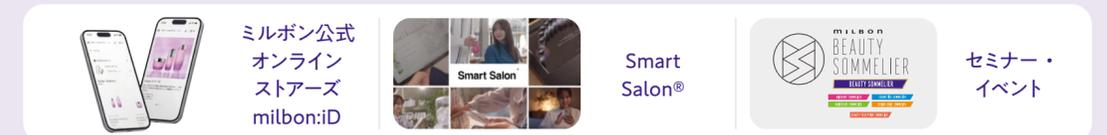


PRODUCT



※知販：専門知識を持つ美容師による技術情報の提供を伴う物販

SERVICE



📣 ミルボンのサプライチェーンについて

1 企画・研究開発



ミルボン

美容師やエンドユーザーからの生の声を活かして企画・開発をしています。また開発の過程では、安心・安全を最優先に、環境負荷低減やクルエルティフリーなどに配慮した研究も行っています。

2 調達



サプライヤー

製品の原材料の一つひとつにおいて、環境と人権に配慮した調達に努めています。また、サプライヤー様とともに持続可能な調達活動への取り組みを推進し、製品の安定した供給にも取り組んでいます。

3 生産



当社工場

国内基幹生産工場「ゆめが丘工場」をはじめとして、CO2排出量削減や水資源保全など、環境に配慮した生産に取り組んでいます。さらに国外2工場でも日本と同等の高い品質と、安定生産・安定供給を目指した生産活動を行っています。

4 物流・輸送



物流事業者

代理店、美容室、エンドユーザーの3つの物流ルートを持ち、物流事業者と協働して積載効率の向上等による環境負荷の低減などに取り組みながら、製造した製品をお届けしています。

5 営業・教育・販売促進



ミルボン・代理店

代理店と協働しながら、リアルとデジタルの両面による教育活動を中核に、美容室の増収増益に貢献する独自の営業・教育支援システムを展開しています。

6 使用



美容室・家庭

美容師がお客様にヘアカラーやヘアケア等の施術をする際に使用するだけでなく、美容室で販売する知販品*はエンドユーザーが各家庭で日常的に使用しています。

*知販：専門知識を持つ美容師による技術情報の提供を伴う物販

7 廃棄



ミルボン・美容室・家庭

当社では、詰め替えパウチの採用やリサイクルしやすい容器素材の採用などによる「4R」を推進しています。さらに、官民一体となった水平リサイクルの実現に向けた取り組みなどにも積極的に参画しています。

サステナビリティ基本方針

サステナビリティ基本方針

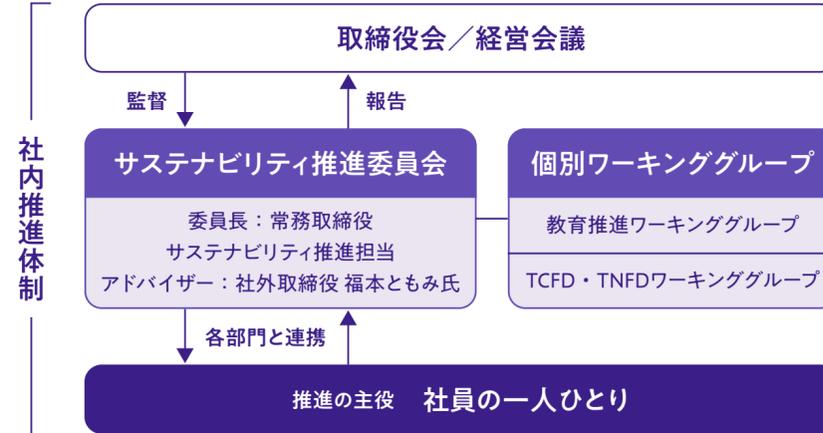
ミルボンは、ヘアデザイナーを通じて、
美と心の豊かさに繋がる美容産業を創造することで、
持続可能な社会の実現をめざします。



サステナビリティの考え方と重要課題

サステナビリティの考え方と推進体制

ミルボンは、創業以来受け継がれる経営理念のもと美容市場に絞った事業を展開しています。持続可能な美容産業を創造していくことこそが、ひいては持続可能な社会の実現につながるものと信じています。経営陣までを含めた一人ひとりが、持続可能な社会の実現に向けて考え、行動することで、これに取り組みます。



ESG/SDGsマトリックスと5つの最重要課題

ミルボンでは、社会のあらゆるステークホルダーの皆様との約束を果たし、永続的に価値を提供するため、サステナビリティを事業戦略の中核に位置付け、事業活動全体で推進しています。サステナビリティの実現に向けては、2019年に設立した常務取締役を委員長とするサステナビリティ推進委員会が中心となり、ISO26000、SDGs17目標、ESGの3つの視点から検討を行い、社内各部門、社外有識者、経営層の意見を集約した上で、ESG/SDGsマトリックスとして整理しました。さらにその中でも特に当社の事業活動と関連性が高く、ステークホルダーからの期待及び関心が高い課題を再評価した上で、「社会課題の解決」「持続的な事業の成長」「社内基盤の構築」の3つのポイントから「5つの最重要課題」を選定し、KPIを定めて重点的に取り組みを進めています。



※ESG/SDGsマトリックスはこちら (<https://www.milbon.com/ja/uploads/docs/esg-sdgsmatrix.pdf>)

Sustainability Commitment 5つの最重要課題



「5つの最重要課題」の中核課題である最重要課題1には、当社の事業活動そのものである「美しさを通じた心の豊かさの実現」を設定しています。当社では、美しさは人々の心の豊かさにつながり、人々が心豊かに生きることのできる社会は持続可能な社会へとつながるものと信じています。そのためには、様々な課題を抱える美容師・美容室の課題解決と持続的な発展が必要であることから、当社だからこそ可能な持続可能な社会への貢献のあり方として中核に設定しています。また、そうした貢献を続けるためには、当社自身が持続可能であり続けなくてはならず、そのための社内基盤として最重要課題の4と5を設定し、さらにサプライチェーン全体で持続可能であり続けるための社会課題の解決への貢献として最重要課題2と3を設定しています。

5つの最重要課題におけるKPIと進捗及び目標一覧

重点取り組みテーマ		KPI [中長期テーマ]	2023年実績	2024年実績	2026年目標	2030年目標	
ステークホルダーとの価値共創	【最重要課題1】 心の豊かさの実現 美しさを通じた	リアルとデジタルを活用した知販* ビジネスの確立 <small>*知販: 専門知識を持つ美容師による技術情報の提供を伴う物販</small>	①milbon:iD会員登録者数 ②ミルボン知販メソッド (スマートサロンの展開都市数	67.0万人 19都市23軒	87.0万人 50都市62軒	▶100万人 ▶100都市500軒	—
		ライフタイムビューティパートナー育成	①スタジオ・イベント・教育動画年間延べ利用人数 ②エデュケーションiD会員登録者数	27.1万人 4.0万人	24.4万人 5.1万人	▶33.5万人 ▶10万人	—
持続的な事業成長を両立 社会課題の解決と	【最重要課題2】 再生・循環型の生産・消費活動	カーボンニュートラル生産体制の構築	ゆめが丘工場のCO2排出量削減率 (2019年比)	81%削減	82.2%削減	▶75%削減	▶カーボンニュートラル実現
		サステナブルな容器包装の設計	石油由来バージンプラスチック使用量削減率 (2020年比、売上高原単位)	9.6%削減	11.6%削減	▶15%削減	▶30%削減
	【最重要課題3】 人にやさしい調達活動	サステナブルなパーム油の調達	RSPO認証パーム油採用率 (MB+B&C)	9.5%	24.4%	▶50%	▶100%
		サプライチェーンにおける人権の尊重	デューデリジェンスによる人権侵害発生件数	0件	0件	▶可能な限り人権侵害ゼロ	▶可能な限り人権侵害ゼロ
持続的な事業成長の社内基盤	【最重要課題4】 公正かつ柔軟な経営体制	取締役会の多様性の推進	①社外取締役の登用 ②女性役員の積極登用 ③国際性を含む、多様なスキルの確保	社外取締役5名 (5/11) 女性役員2名 (2/14) 海外勤務経験を有する役員 (6/14)	社外取締役5名 (5/12) 女性役員3名 (3/15) 海外勤務経験を有する役員 (6/15)	▶継続的に3分の1以上登用 ▶積極的に女性役員を登用 ▶国際性を含む、多様なスキルの確保の実現	—
		取締役会の実効性向上	第三者機関評価を通じた、重要課題の選定と改善活動の進捗	継続実施中	継続実施中	▶毎年の課題設定に対して継続的な改善活動を行う	—
	【最重要課題5】 働きがいのある職場環境	働き続けたいと感じる体制・制度の実現	①若手社員の離職率 ※直近5年の若手社員 (新卒~3年目) の離職率平均 ②有給休暇取得率 ③エンゲージメントサーベイ	10.8% 67.8% エンゲージメントサーベイ及び目標設定等*の実施 <small>*経営層への実施報告、上級管理職へのフィードバック及びアクションプランの作成含む</small>	11.7% 72.9% エンゲージメントサーベイの実施、重要項目・目標の設定	▶9% ▶70% ▶エンゲージメントサーベイの継続	▶6% ▶80% ▶—

▶ サステナビリティ 推進のこれまでと これから

「社員一人ひとり」の意識の醸成が 実践と成果へ

ミルボンのサステナビリティへの取り組みは、「サステナビリティ」や「ESG・SDGs」の社会的な要請の高まりを受け、2019年より本格的に始動いたしました。当社では「つぶれない会社を創る」という、現代のサステナビリティにも通ずる創業以来の信念が受け継がれておりますが、当初は地球規模の課題に対して、何から、どのように着手すべきか、まさに手探りの状態でありました。

そうした中で、まずは活動の指針となる「サステナビリティ推進基本方針」を制定した後、株式会社伊藤園でESG/SDGs推進に取り組まれていた笹谷秀光氏のサポートのもと、サステナビリティへの理解を全社で深めるべく、役員・幹部向けの勉強会を行い、その後2019年2月に設立したサステナビリティ推進委員会を中心に、全社員向けの勉強会を約2カ月間をかけて全事業部門で実施しました。さらにその後には、各部門からESGの各領域とISO26000、SDGsの17項目のゴールに紐づく課題を吸い上げた上で、マトリックスとして整理し、特に優先度の高い課題を「5つの最重要課題」として設定し、積極的な取り組みを進めております。

推進体制では、サステナビリティ推進委員会が全社方針の策定、各部門と連携した推進支援を担うとともに、取締役会及び経営会議に定期報告することで、経営層による監督を受けながら、経営戦略への組み込みや活動の改善等に努めております。

ただし、サステナビリティ推進委員会はあくまでも推進支援を担う組織であり、当社ではサステナビリティ推進の主役が「社員一人ひとり」となることを目標としております。そのため、取り

組み開始以降は毎年、新入社員研修において勉強会を実施しているほか、2020年から現在に至るまで、最新の社会動向や社内の取り組みを共有する社内向けWEBマガジンを定期発行するなど、継続的な接点の創出を続けております。

これらの取り組みによる成果も確実に表れており、環境領域では特に生産本部及び開発本部による活動によって、5つの最重要課題の目標を前倒しで達成するなど確かな進捗も生まれ、ガバナンス領域においても、社外取締役の積極登用等による取締役会の多様性の推進が図られるなど、効果的なガバナンスが機能し始めております。一方で、人権や働きがいを含む社会に対する取り組みには目標達成に課題が残るものもあり、引き続き推進の強化を図っていきたくと考えております。

また、ESG外部評価機関からの評価では、2024年度に「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄へ選定され、当社基幹生産工場であるゆめが丘工場ではEcoVadis社による調査において23年度、24年度の2年連続で「ゴールド評価」を獲得するなど、一定の評価を頂いております。

当社では現在、2026年と2030年の目標を定め、その達成へ取り組みを進めておりますが、今後はより長期的視点に立った目標設定と実践が必要になるものと捉えております。それにより、真にサステナビリティの事業との統合を図り、美と心の豊かさにつながる美容産業の創造と持続可能な社会への貢献を目指してまいります。



株式会社ミルボン
常務取締役・サステナビリティ推進担当
村井 正浩 (むらい・まさひろ)

サステナビリティにおけるテーマ別ハイライト

Environment 環境

- 2020. 6 CO2排出量の削減につながる低エネルギー製法スタート
 - 12 日本動物実験代替法第33回「板垣宏学生奨励賞」受賞
- 2021. 1 電力の見える化へ当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」にFEMS導入開始
 - 5 水使用量削減につながる新純水装置の導入
 - 6 RSPO認証クレジット商品発売開始
 - 9 「神戸プラスチックネクスト ～みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル～」参画
- 2022. 1 サステナブルコスメアワード2021にて審査員賞、企業部門インターナショナル賞受賞
 - 3 HSP法を用いて、眼刺激性に関する動物代替試験の結果を予測するシステムを構築
 - 4 新商品「ENOG」ヘアカラーキャップ小型化／当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」でRE100基準の再生可能エネルギーへ全電力を切替
 - 6 当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」でRSPOサプライチェーン認証を取得
 - 8 新商品で植物由来プラスチック配合の商品パッケージを採用
 - 12 EcoVadisサステナビリティ調査で「シルバー」評価を獲得
- 2023. 1 TCFD提言への署名を実施／TCFDコンソーシアムへの加入
 - 2 プラスチック使用量削減に向けヘアケア商品の容器仕様を変更、年間約10tのプラスチック量の削減
 - 3 ミルボングループ環境方針を策定・公開／神戸プラスチックネクスト つめかえパックリサイクルと神戸クリーン作戦に参画／TCFD提言に基づく、当社の気候変動への対応方針についてコーポレートサイトに公開
 - 4 Villa Lodolaレノーボ新シリーズにおいて、プラスチック使用量を削減した新容器を採用
 - 5 当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」で使用した水が海へ至るまでの直接的な排水経路となっている久米川及び木津川の「水質調査活動」を実施
 - 7 ミルボン×市民団体「魚と子どものネットワーク」の協働で地域の子どもたちと川の環境保全を学ぶ体験学習「水質調査と水辺の自然観察会」を開催
 - 10 「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画
- 2024. 3 PJOLIシリーズにおいて植物由来プラスチックを配合し、石油由来プラスチックの使用量を削減した容器を採用
 - 4 ミルボンサステナビリティ調達基本方針を策定・公開／国内事業所におけるScope3排出量を公開
 - 5 久米川及び木津川の「水質調査活動」の継続実施／自然共生サイトに認定されている亀山里山公園「みちくさ」において生物多様性保全活動を実施
 - 7 第2回「水質調査と水辺の自然観察会」を開催

Social 人と社会

- 2019. 9 関西大学に寄附講座「美容・化粧品工学」を開講
- 2020. 2 多様な人材が生き生きと働ける社会の実現へ障がい者雇用「M.I.Eフォーラム」で基調講演
 - 6 ミルボン公式オンラインストアーズ「milbon:iD」本格稼働／ミルボン健康宣言
 - 9 関西大学寄附講座追加開講
 - 12 美容室の価値を伝えるスペシャルムービー「美容室の帰り道」公開
- 2021. 3 「健康経営優良法人2021」銘柄認定
 - 4 美容師のデジタル教育支援サービス「エデュケーションiD」スタート
 - 6 世界中の美容師と美容の未来をつなぐバーチャルイベントスペース「ミルボンデジタルアリーナ」スタート
- 2022. 1 花王株式会社と美容室でのビューティヘルスケアサービスの確立に向けた共同プロジェクト開始／2021-2022年度ブランドムービー「美容室で出会った言葉たち」公開
 - 2 「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」とともに、“美しさを拓く”ショートフィルム配信プロジェクト「MILBON BEAUTY MOVIES」をスタート
 - 3 2025年大阪・関西万博「大阪パビリオン」への協賛決定／ウクライナ及びその周辺地域で被災された方々への人道的支援のため国連難民高等弁務官事務所（UNCHR）へ10万ユーロの寄付を実施／「健康経営優良法人2022」認定
 - 5 ミルボングループ人権方針策定・公表／中核人材の多様性確保に向け、2030年女性管理職比率20%を目標設定
 - 6 「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア2022」において、「MILBON BEAUTY AWARD」を授賞
 - 10 2022年度従業員向けエンゲージメントサーベイを実施
- 2023. 1 リアルとデジタルを融合し、お客様の“もっと”を叶える新たなサロン業態「Smart Salon®」スタート
 - 2 トルコ・シリア地震の被災者の救援及び復興に役立てていただくため、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム「トルコ南東部地震被災者支援2023」プログラムへ1,000万円を寄付
 - 3 「健康経営優良法人2023」認定／スポーツ分野において新たに女性プロゴルファーへのスポンサーシップを展開
 - 5 MSCI社が開発した「MSCI 日本株女性活躍指数（WIN）」の構成銘柄に選定
 - 6 第2回「MILBON BEAUTY AWARD」を授賞／当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」において「ISO22716」認証を取得
 - 7 ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定
 - 11 EcoVadisサステナビリティ調査でゆめが丘工場が「ゴールド」評価を獲得
- 2024. 1 能登半島地震により被災した方々の救援や被災地の復旧に役立てていただくため、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム「令和6年能登半島地震 被災者支援」プログラムへ500万円の寄付を実施
 - 3 中長期の経営戦略と連動した人材戦略の構築を目的とした「人材開発委員会」を新設／「健康経営優良法人2024」認定
 - 11 EcoVadisサステナビリティ調査でゆめが丘工場が2年連続で「ゴールド」評価を獲得

サステナビリティにおけるテーマ別ハイライト

Governance ガバナンス

- 2020.3 譲渡制限付株式報酬制度の導入
- 2021.2 2021年度取締役会実効性評価、第三者アンケートを実施
 - 3 女性社外取締役選任 社外取締役1/3体制へ
- 2022.1 初の女性執行役員2名登用
 - 2 新中期事業構想発表 サステナビリティコミットメントを戦略の中核に位置付け/2022年度取締役会実効性評価第三者アンケート、社外役員インタビューを実施
 - 3 新たに女性社外取締役を1名選任/社外取締役を新たに2名選任し、5名体制/執行役員を中心とした経営会議を新設し、取締役会はモニタリング機能への移行促進/取締役、常勤監査役、執行役員向けに外部講師を招き「人権研修」を実施
 - 5 社内役員、監査役、執行役員で構成するリスクマネジメント委員会を新設
 - 6 ミルボン内部通報・相談窓口を第三者機関に委託し、社員への周知を実施
 - 9 取締役、監査役、執行役員向けに外部講師を招き「TCFD勉強会」を実施
 - 10 取締役、監査役、執行役員向けに外部弁護士を招き「コーポレートガバナンス勉強会」を実施/任意の委員会として中長期的なコーポレートガバナンスの向上を審議する「ガバナンス委員会」を新設
- 2023.2 2023年度取締役会実効性評価第三者アンケート、社外役員インタビューを実施
 - 3 ミルボングループ倫理行動指針を策定・公開
 - 5 指名・報酬委員会を、指名委員会、報酬委員会に分割し、それぞれに事務局を置く体制へ変更
 - 9 取締役、監査役、執行役員向けに外部講師を招き「人的資本経営勉強会」を実施
 - 10 取締役、監査役、執行役員向けに外部講師を招き「DE&I勉強会」を実施
- 2024.2 2024年度取締役会実効性評価第三者アンケート、社外役員インタビューを実施
 - 3 新たに女性社外取締役を1名選任/新たに社外監査役を1名選任/経営視点の強化のため、機関投資家を外部講師として招き「執行役員トレーニングプログラム」を実施

サステナビリティ教育・推進

- 2019.1 サステナビリティ基本方針策定
 - 2 サステナビリティ推進委員会発足
 - 3 SDGsに関する勉強会を全事業部門で実施
- 2020.1 部門別サステナビリティ目標の発表
 - 3 社員のサステナビリティ推進を支援する社内WEBマガジン「ヨムミルボン」創刊。以降、現在まで定期的に継続発行
 - 5 国連グローバル・コンタクト署名
 - 9 海外子会社向け動画の配信
 - 11 サステナビリティ5つの最重要課題の選定
- 2021.3 2021年度ミルボンサステナビリティ推進動画の社内公開
- 2022.2 新中期事業構想において、サステナビリティコミットメントを戦略の中核に位置付け、KPIを更新
- 2023.7 サステナビリティ推進委員会にTCFDワーキンググループを新設（のちにTCFD・TNFDワーキンググループに発展）



新入社員研修における勉強会
=知識の向上と当事者意識の醸成



社内向けサステナビリティ
WEBマガジンの定期発行
=継続的かつ定期的な接点の創出

Materiality - 5つの最重要課題 -

ステークホルダーとの価値共創

最重要課題 ①

美しさを通じた心の豊かさの実現

OUTCOME

美容師の教育支援と生活者のアクセシビリティ向上による美しく心豊かな社会の促進

美しさとは、それぞれの地域・文化とともにあるものです。そして美しくなることは、心を前向きに、社会へ足を踏み出す原動力となるものだ、と、ミルボンでは考えています。ヘアデザイナーは、お客様一人ひとりに寄り添い、その人ならではの美しさを引き出すことができる存在です。そんなヘアデザイナーが、美容室が社会に広がるよう、様々なサービスや商品を届け、また、ヘアデザイナーの価値向上の支援をすることこそ、ミルボンの最も重要な使命だと捉え、最重要課題の中心に置いています。

1 美しさを通じた心の豊かさの実現

重点取り組みテーマ	KPI 【中長期テーマ】	2026年 目標	SDGs17 目標
リアルとデジタル活用した知識ビジネスの確立	ミルボン公式オンラインストアーズmilbon:iD会員登録者数 ミルボン知販メソッド（スマートサロンの展開都市数	100万人 主要100都市500軒	3 3. 健康と福祉 5 5. ジェンダー平等 11 11. 持続可能な都市とコミュニティ 16 16. 平和と公正 17 17. パートナーシップ
ライフタイムビューティパートナー育成	スタジオ・イベント・教育動画 年間延べ利用人数 エデュケーションiD会員登録者数	33.5万人 10万人	3 3. 健康と福祉 5 5. ジェンダー平等 11 11. 持続可能な都市とコミュニティ 16 16. 平和と公正 17 17. パートナーシップ

最重要課題1 「美しさを通じた心の豊かさの実現」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ1：リアルとデジタルを活用した知販ビジネスの確立

KPI①

ミルボン公式オンラインストアーズmilbon:iD会員登録者数

2023年実績

67.0万人

2024年実績

87.0万人(前年比+20万人)

2026年目標

100万人

KPI②

ミルボン知販メソッド(スマートサロン)の展開都市数

2023年実績

19都市23軒

2024年実績

50都市62軒

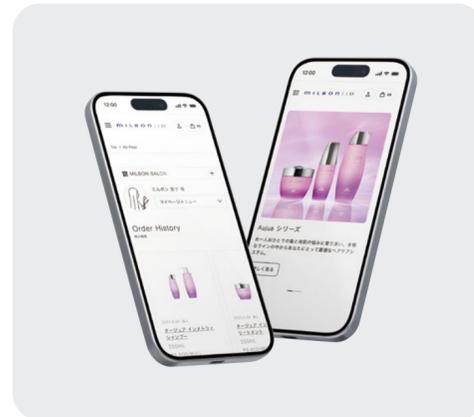
2026年目標

主要100都市500軒

美容室とお客様を365日つなぐ「美容のインフラ」へ

ミルボン公式オンラインストアーズmilbon:iDは、美容室とお客様がリアルの来店時のみならず、24時間365日つながり続けられるようになることで、美容室の持続的成長と人々の美しく心豊かな生き方に貢献する新たなコミュニケーションツールです。

2020年6月の本格稼働以来、急速に支持を拡大し続け、会員登録者数は87.0万人、導入美容室数は6,566軒まで伸長しており、2025年度内には会員登録者数100万人という2026年度目標を1年前倒しで達成できる見込みとなっております。今後は、全国展開が進むスマートサロンと連動しながら、人々の美しさへのアクセスをより利便性高く円滑にする「美容のインフラ」として機能・発展させていきます。



2024年度の取り組み

- 会員向けライブコマースの強化
- 美容師が提案したスタイリング方法等の情報を閲覧できる「STYLESTOCK」の実装
- シーズンプロモーションの推進
- トライアル会員とmilbon:iD美容室をつなぐデジタルトライアルストアの常設化

2025年度の計画

- アクティブ会員数とLTV向上に向けた調査の実施
- 会員専用LINE連携の導入
- 「STYLESTOCK」の機能拡充
- 会員向けトライアルキットの展開
- ライブコマースイベントの企画

心豊かな社会に不可欠な美容室の持続的発展に寄与

リアルとデジタルとの融合により新たな美容室体験を可能とする「スマートサロン」は、お客様と知販品の接点の増加と、今までにない顧客体験価値の創造によって、人口減少に起因する客数減少という課題に直面する美容室の生産性向上と、人々の美しい生き方を寄与する新しい美容室のあり方です。

2023年度からご賛同いただいた美容室との協働によるテストマーケティングをスタートし、本格展開を開始した2024年度は全国50都市62軒へと広がり、知販品を購入していただけるお客様が増加するとともに、成功要件が整理され始めています。今後は、milbon:iDとともに「美容のインフラ」として、心豊かな社会の実現に不可欠な美容室の持続的発展に貢献していきます。



2024年度の取り組み

- 国内全8支店の連携によるフラッグシップとなる成功サロンづくりを推進
- スマートサロンサポートの仕組みとして「7つの成長ドライバー※」を整備

※先駆けて展開したスマートサロンの好事例をもとに、成長に必要な7つの要件を整理し、仕組化したもの

2025年度の計画

- 50都市62軒のスマートサロンを中核とした成果の深掘り
- 既存スマートサロンへの「7つの成長ドライバー」によるサポート
- FP（フィールドパーソン）との連携及びサポート態勢の強化

最重要課題1 「美しさを通じた心の豊かさの実現」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ2：ライフタイムビューティパートナー育成

KPI①

スタジオ・イベント・教育動画年間延べ利用人数

2023年実績

27.1万人

2024年実績

24.4万人(前年比-2.7万人)

2026年目標

33.5万人

KPI②

エデュケーションiD会員登録者数

2023年実績

4.0万人

2024年実績

5.1万人

2026年目標

10万人

リアルとデジタルの両面で美容師の成長を支援

ミルボンでは、人々の美しく心豊かな生き方に寄り添う美容師の成長を支援するために、スタジオを活用した教育セミナーやイベントといったリアルな機会提供のみならず、動画配信をはじめとしたオンラインコンテンツの提供を拡充しています。

2024年度は、実践型を中心としたカリキュラムを多く展開したことにより、延べ利用人数は減少しましたが、その分、一人ひとりの美容師との関係強化が図られており、今後は、教育支援オンラインサービス「エデュケーションiD」と協働しながら、コンテスト型イベントのグローバル展開や美容学校でのイベント展開を進めるなど、国境や世代を超えた生涯美容師の育成をサポートすることで「教育のミルボン」としてのさらなる貢献を図っていきます。



2024年度の取り組み

- 美容師のタイプ別にロールモデルを設定し、キャリアパスを描く教育支援「MIRAIWAY」を展開
- 楽しみながら知識の習得を図るイベント「KA」を開催
- コンテスト型イベント「DA」やビューティフェスを全国6都市で開催

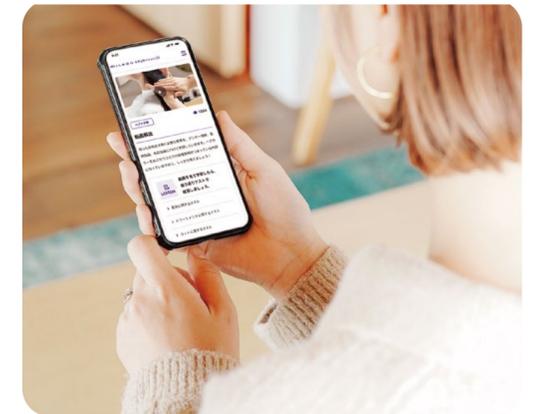
今後の計画

- 美容師コンテスト型イベントの国際化の推進
- 「KA」の美容学校への展開
- エデュケーションiDやFP活動との連携強化によるオンライン教育のさらなる定着

多様化する働き方に寄り添う教育で生涯美容師の育成を

ミルボンでは、働き方改革や働き方の多様化によって教育時間の確保が課題となっている美容室に寄り添い、人々に質の高い美容サービスを提供できるよう、美容師の教育を支援するオンラインサービス「エデュケーションiD」を展開しています。

必要な教育や情報を必要なタイミングで取得できるパーソナライズした環境の提供が支持され、会員登録者数は2024年度末で5.1万人に伸長しています。今後は、コンテンツの充実化と美容学校への本格展開などを通じて、学習の効果・効率、利便性、労務環境の向上をサポートすることで、美容業界の教育制度を革新し、あらゆる美容師が生涯美容師としてお客様に寄り添い続けることのできる環境を支援していきます。



2024年度の取り組み

- 美容室のスタッフ教育を顧客視点で捉えたビューティレセプションソムリエの新設
- 美容学校専用のオージュアソムリエエスチューデントカリキュラムの提供
- 美容師のタイプ別にロールモデルを設定し、キャリアパスをイメージさせる動画「MIRAIWAY」の配信

2025年度の計画

- 美容師のキャリアパスに必要とされる動画コンテンツの制作
- 美容学校への本格展開

Materiality - 5つの最重要課題 -

社会課題の解決と持続的な事業成長を両立

最重要課題 ②

再生・循環型の生産・消費活動

OUTCOME サプライチェーン全体でのサーキュラーエコノミーの加速

最重要課題 ③

人にやさしい調達活動

OUTCOME 持続可能なサプライチェーンの構築

ミルボンが、最重要課題1の「美しさを通じた心の豊かさの実現」によって持続的な社会に貢献する上では、事業活動の土台である社会そのものが持続可能でなくてはなりません。そのため、社会的存在である企業の責務として、世界的な重要課題である気候変動をはじめとした、様々な地球規模の環境課題や、メーカーとしての調達、生産、消費・廃棄に至るサプライチェーン全体で、環境や人権をはじめとする社会課題の解決を推進することは、持続的な事業成長を推進する上で重要と捉え、これらを最重要課題2・3と位置付けています。

2 再生・循環型の生産・消費活動

重点取り組み テーマ	KPI 【中長期テーマ】	2026年 目標	2030年 目標	SDGs17 目標
カーボンニュートラル 生産体制の構築	ゆめが丘工場の CO2排出量削減率 ※2019年比	75%削減	カーボン ニュートラル 実現	12 13 17
サステナブルな 容器包装の設計	石油由来バージンプラスチック 使用量削減率 ※2020年比、売上高原単位	15%削減	30%削減	12 14 17

3 人にやさしい調達活動

重点取り組み テーマ	KPI 【中長期テーマ】	2026年 目標	2030年 目標	SDGs17 目標
サステナブルな パーム油の調達	RSPO認証 パーム油採用率 (MB+B&C)	50%	100%	8 12 17
サプライチェーン における 人権の尊重	デューデリジェンスによる 人権侵害発生数	可能な限り 人権侵害ゼロ	可能な限り 人権侵害ゼロ	10 12 17



最重要課題2「再生・循環型の生産・消費活動」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ1：カーボンニュートラル生産体制の構築

KPI

基幹生産工場「ゆめが丘工場」のCO2排出量削減率 ※2019年比

2023年実績

81.3%削減

2024年実績

82.2%削減
(前年比0.9ポイント向上)

2026年目標

75%削減
※2023年度に前倒しで達成

2030年目標

カーボン
ニュートラル実現

2030年目標の達成に向け、CO2排出量削減の取り組みを推進

ミルボンでは基幹生産工場「ゆめが丘工場」におけるCO2排出量削減率をKPIに設定して、CO2排出量の削減につながる各種取り組みを推進しています。

2022年4月からCO2フリー電気の100%調達を継続しており、2023年度には2019年比75%削減という2026年目標を3年前倒しで達成しています。2024年度は、自家消費型の太陽光発電設備を増設したほか、都市ガス使用量削減に向けて薬品添加による燃焼効率向上試験を年間実施し、省エネを推進しました。今後は、2030年のカーボンニュートラル実現を目指し、再生可能エネルギーの安定確保を進めるとともに、海外工場も含めた取り組み範囲の拡大を進めていきます。



2024年度の取り組み

- 再生可能エネルギーの100%採用を継続
- グローバルテクニカルセンターの増築に合わせて太陽光発電設備を増設
- 都市ガス使用量削減に向け、薬品添加による燃焼効率向上と省エネを推進

今後の計画

- 再生可能エネルギーの安定確保へカーポートタイプの太陽光発電PPAを検討
- ボイラーのさらなる効率化への廃熱利用やヒートポンプの活用などを検討
- 海外工場への取り組みの展開
- カーボンニュートラル実現への手段の研究

重点取り組みテーマ2：サステナブルな容器包装の設計

KPI

石油由来バージンプラスチック使用量削減率 ※2020年比、売上高原単位

2023年実績

9.6%削減

2024年実績

11.6%削減
(前年比2.0ポイント向上)

2026年目標

15%削減

2030年目標

30%削減

「4R」の推進で計画的削減を図り、循環型社会に貢献する

ミルボンでは、限りある資源の活用と地球温暖化の課題解決に向け、「4R」の推進によって、石油由来バージンプラスチック使用量の削減を進めています。

これまでは、主に新製品で、容器の成形方法の変更による軽量化やキャップの小型化、植物由来プラスチックの採用、リサイクルがしやすいアルミ蒸着パウチへの変更といった、容器包装の設計段階からの計画的な削減に取り組み、2024年度は2020年比で11.6%の削減が実現しております。2030年の30%削減という目標の達成に対しては、課題もあるものの、部門の垣根を超えて一つひとつの小さな成果を積極的かつ着実に積み重ねることで削減率を高めていき、循環型社会に貢献していきます。



2024年度の取り組み

- キャップの小型化及びキャップレス化
- 成形方法の変更 ● 化粧箱フィルムの削除
- ラベルから印刷仕様への変更
- 植物由来プラスチック等の採用 ● ガラスボトルの採用
- 詰め替えパウチによるサロンボトルの継続使用の推奨
- リサイクルしやすいアルミ蒸着パウチへの変更

今後の計画

- 上記取り組みの継続
- 一部紙素材を使用したチューブの検討
- リサイクルしやすいモノマテリアル資材の採用検討

最重要課題3 「人にやさしい調達活動」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ1：サステナブルなパーム油の調達

KPI

RSPO認証パーム油採用率 (MB+B&C)

2023年実績

9.5%採用

2024年実績

24.4%採用
(前年比14.9ポイント向上)

2026年目標

50%採用

2030年目標

100%採用

環境と人権に配慮した認証原料の積極採用を推進

ミルボンでは、製品の主要原料の一つであるパーム油の持続可能な調達へ、環境や人権に配慮して生産されたRSPO認証パーム油の積極採用を進めています。

取り組みの推進へ当社は、2019年にRSPOに加盟し、2022年には正会員となり、合わせて2020年にはJaSPONへも加盟しています。さらに2022年に当社基幹生産工場「ゆめが丘工場」がRSPOサプライチェーン認証を取得して以降は、新製品において原則、RSPOへの対応がなされていない原料は新規採用しないというルールに基づいた開発・生産を継続しています。今後はサプライヤーの協力体制を構築しながら、2026年度の採用率50%と2030年度の採用率100%の達成を目指していきます。



2024年度の取り組み

- 既存原料の認証原料への置き換え

今後の計画

- 既存原料の認証原料への置き換えの拡大
- 先進地である欧米基準並みの採用率への引き上げ

重点取り組みテーマ2：サプライチェーンにおける人権の尊重

KPI

デューデリジェンスによる人権侵害発生件数

2023-24年実績

0件

2026-30年目標

可能な限り人権侵害ゼロ

サプライチェーン全体で人権尊重の協力体制を構築する

ミルボンでは、国連の「国際人権章典」をはじめとした4つの国際規範を支持しており、国連グローバルコンパクト (GC) の署名企業としてGCの10原則を尊重した上で、「ミルボングループ人権方針」「ミルボングループ倫理行動指針」「ミルボンサステナブル調達基本方針」をそれぞれ策定し、人権を尊重した企業活動の徹底を図っています。

また、人権尊重の領域をグループ内からバリューチェーン全体へと拡大するため、GCNJセルフ・アセスメント・ツールやEcoVadisを活用した把握と向上に努めており、デューデリジェンスによる人権侵害発生件数は0件を継続しています。今後は、欧米を中心とした規制強化にも対応できる体制を整備すべくサプライチェーン全体での協力体制の構築を進めていきます。

Milbon
Human
Rights Policy

2024年度の取り組み

- サステナブル調達基本方針の見直し（人権の尊重を含む「社会的責任」だけでなく、「環境への配慮」についてサプライヤーに要請する具体的な項目を明記）
- セルフアセスメント調査結果の公開

今後の計画

- 立場の弱いサプライヤーや当社海外拠点をはじめとしたあらゆるステークホルダーの救済を目的とした「苦情処理メカニズム」の開発設置（2026年運用開始予定）

Materiality - 5つの最重要課題 -

持続的な事業成長の社内基盤

最重要課題 4

公正かつ柔軟な経営体制

OUTCOME 持続可能な企業価値向上に向けた体制の構築

最重要課題 5

働きがいのある職場環境

OUTCOME 社員が働きがいのある、働き続けられる職場環境の実現

持続可能な社会に貢献するための大前提として、当社自身も持続可能であり続けなくてはならないと考えています。そのため、持続的な事業成長のための社内基盤の構築に向けて、最高意思決定機関である、取締役会の実効性向上を図ることにより、公正かつ柔軟な経営体制を構築するとともに、社員一人ひとりが、働きがいを感じ、働き続けたいと感じる体制・制度の実現に向けた取り組みの推進を、最重要課題4・5と位置付けています。

4 公正かつ柔軟な経営体制

重点取り組み テーマ	KPI 【中長期テーマ】	2026年 目標	2030年 目標	SDGs17 目標
取締役会の 多様性の推進	社外取締役の登用 女性役員の積極登用 国際性を含む、多様なスキルの確保	継続的に3分の1以上登用 継続的に登用	継続的に登用 国際性を含む、多様なスキルの確保の実現	5 性別平等 16 公正な働き場 17 パートナーシップ
取締役会の 実効性向上	第三者機関評価を通じた、 重要課題の選定と 改善活動の進捗	毎年の課題設定に対して、 継続的な改善活動を行う		16 公正な働き場 17 パートナーシップ

5 働きがいのある職場環境

重点取り組み テーマ	KPI 【中長期テーマ】	2026年 目標	2030年 目標	SDGs17 目標
働き続けたいと感じる 体制・制度の実現	若手社員の離職率 ※直近5年の若手社員(新卒~3年目)の離職率平均 有給休暇取得率 エンゲージメントサーベイ	9% 70% エンゲージメント サーベイの継続	6% 80%	5 性別平等 8 豊かになり続ける



最重要課題4「公正かつ柔軟な経営体制」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ1：取締役会の多様性の推進

KPI①

社外取締役の登用

2023年実績

取締役11名中5名登用

2024年実績

取締役12名中5名登用

2026-30年目標

継続的に3分の1以上登用

KPI②

女性役員の積極登用

2023年実績

役員14名中2名登用

2024年実績

役員15名中3名登用

2026-30年目標

継続的に登用

KPI③

国際性を含む、 多様なスキルの確保

2023年実績

海外勤務経験を有する役員 (6/14)

2024年実績

海外勤務経験を有する役員 (6/15)
※執行役員では外国籍社員を1名登用

2026-30年目標

国際性を含む、
多様なスキルの確保の実現

柔軟な議論と意思決定が可能な多様性ある取締役会へ

ミルボンでは、取締役会の多様性の推進を図ることで、多様化する社会の価値観や要求に適切に対応した議論と意思決定が可能な経営体制の強化に継続的に取り組んでいます。

社外取締役の登用は、取締役12名中5名を登用しており、女性役員についても2024年度から1名増員の計3名体制となったほか、執行役員では8名中2名で女性を登用するなど、着実な増員が図られています。さらに、グローバル展開が加速する当社においては国際性も重要な側面であると認識し、海外勤務経験のある取締役の充実を進めていることに加え、2024年度からは当社韓国子会社の代表を務める韓国籍社員を執行役員に登用しています。今後も現在及び将来的な事業構造を鑑みながら、さらなる検討を進めた上で、あるべき多様性の確保に努めていきます。

2024年度の取り組み

- 取締役12名中5名で社外取締役を登用
- 海外勤務経験のある取締役の充実
- 女性役員を1名増員し、計3名体制に強化
- 執行役員に韓国籍社員を登用

今後の計画

- 取締役会における社外取締役比率3分の1以上を維持
- 取締役会及び経営会議におけるあるべき多様性の継続的検討
- 女性役員の継続的登用を推進
- 性別、国籍に限らない多様性の確保の推進

重点取り組みテーマ2：取締役会の実効性向上

KPI

第三者機関評価を通じた、重要課題の選定と改善活動の進捗

継続目標

毎年の課題設定に対して、継続的な改善活動を行う

社外視点からの課題に対する 解決策を審議・実行

ミルボンでは取締役会の実効性向上へ、全役員を対象にした年1回の第三者機関アンケートと、社外取締役への事務局インタビューを行っており、そこで集約された過年度の課題に対する解決策を、取締役会で審議・実行する体制を構築しています。

2024年度は、議論の内容における意見が多く見られ、それらを年間スケジュールに積極的に組み込むことで審議内容の質の向上を図りました。さらに、取締役会から経営会議への権限移譲が進む中で、執行役員の経営視点の強化を図る必要性についてガバナンス委員会で検討がなされ、機関投資家の協力のもとでトレーニングプログラムを実行しました。また将来的にはモニタリング型の取締役会への移行を見据えていることから、その将来像から逆算した取締役会のあり方についても審議し、明確化していきます。

2024年度の取り組み

- 全役員を対象にした年1回の第三者機関アンケートの継続
- 社外取締役に対する事務局インタビューの継続
- 取締役における実効性向上に向けた審議
- 機関投資家の協力を得たトレーニングプログラムの実施による経営会議の実効性向上

今後の計画

- 第三者機関アンケート及び事務局インタビューの継続実施
- 実効性評価における抽出課題の継続的な改善
- モニタリング型の取締役会への移行を推進

最重要課題5 「働きがいのある職場環境」のKPI進捗と取り組み

重点取り組みテーマ：働き続けたいと感じる体制・制度の実現

KPI①

若手社員の離職率

※直近5年の若手社員（新卒～3年目）の離職率平均

2023年実績

10.8%

2024年実績

11.7%

2026年目標

9%

2030年目標

6%

KPI②

有給休暇取得率

2023年実績

67.8%

2024年実績

72.9%

2026年目標

70%
(前倒しで達成)

2030年目標

80%

KPI③

エンゲージメントサーベイ

2023年実績

エンゲージメントサーベイ
及び目標設定等*の実施

2024年実績

エンゲージメントサーベイ実施
重要項目・目標の設定

2026年目標

エンゲージメント
サーベイの継続

*経営層への実施報告、上級管理職へのフィードバック及びアクションプランの作成含む

あらゆる社員が安心して働き続けられる環境整備で 人材定着～活躍の促進へ

ミルボンでは、社員一人ひとりの働きがいの実現が持続的な事業成長に不可欠なものであると認識しており、働き続けたいと感じ、働き続けられる体制・制度の整備に取り組んでいます。

その指標の一つである若手社員離職率平均は、当社にマッチする人材要件や経営理念・ビジョン・ビジネスモデルと連動した採用施策、6カ月以上にわたる新入社員研修を中心とした入社後の取り組みにより、30%以上とされる国内平均を大きく下回る10%台前半で推移しています。2026年度の9%という目標達成を目指す中で、2024年度はDE&Iプロジェクト主導で営業職の価値観・働き方に関するアンケートを実施しており、今後は営業職の女性中心に多く抱えているキャリア不安の課題解決を進めることで、あらゆる社員が安心して働き続けられる環境の拡充を実現していきます。

2024年度の取り組み

- 担当部内で横断プロジェクトを発足（課題の網羅・特定・優先度付けと解決策の検討）
- 営業職向けのアンケート調査を実施（女性FPの活躍とキャリア継続の検討が主目的）

今後の計画

- 入社3年目までのフォロー策の見直し・拡充
- 配属地ギャップによる離職防止へエリア採用の検討
- 営業職のワーキングマザーにおける支援の強化（社外メンター導入・上司向け研修など）

心身ともに健康的に働き続けられる制度の充実と 活用促進の風土の醸成へ

ミルボンでは、働きがいを持って働き続けられる職場環境づくりと、限られた時間の中で成果を上げられる風土・文化の醸成へ、有給休暇取得率をKPIとして、制度の充実と活用の促進を進めています。

これまでには年次有給休暇の計画的付与制度とフレックスタイム制を導入するとともに、ケア休暇の啓発、管理監督者への時間休の適応、各所衛生委員会での進捗報告や勉強会などを行っており、2024年度はさらに、担当部内でプロジェクトを発足し、計画的付与制度の拡充施策を実施したことなどにより、2026年度目標の取得率70%を2年前倒しで達成しています。今後は、部署・等級・職種による取得率の格差の改善を進め、さらなる取得率の向上を目指していきます。

2024年度の取り組み

- 担当部内プロジェクトを発足（現状分析・向上施策の立案・啓発）
- 次年度の推進スケジュールを策定

今後の計画

- 部署・等級・職種による取得率の格差の改善策の検討・実施
- 各事業所の衛生推進者との情報交換・勉強会の実施

自己実現と組織の目標を重ね合わせ、事業成長へつなげる

ミルボンでは、エンゲージメントサーベイの実施により、社員の業務や会社に対する意識を可視化し、一人ひとりの自己実現と経営・組織の目標を重ね合わせることは、さらなる事業成長へ欠かすことのできないものであると捉えています。

2022年度から毎年継続実施しており、調査項目のうち「理念戦略」「外部適応」「変革活動」の3項目を重要項目として、期待度、満足度がともに高い「強み」としてプロットされることを目指しています。2024年度は、各部門長への個別フィードバックとアクションプランの作成・提出の啓発、生産本部におけるワークショップ等を継続実施し、今後は重点項目の満足度向上につながる施策の立案と実行を推進するとともに、部門主導での強みの伸長と弱みの改善を進めていきます。

2024年度の取り組み

- エンゲージメントサーベイに関する経営報告
- 各部門長への個別のフィードバックとアクションプランの作成・提出の啓発
- 生産本部におけるワークショップの実施
- 特定営業所における働き方改革の実施

今後の計画

- 重点項目における満足度の向上につながる施策の立案と実行
- 部門主導での強みの伸長と弱みの改善による底上げ

Environment - 環境への取り組み -

ミルボングループ 環境方針

ミルボンは、商品開発から原材料の調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までの全ての過程において、地球環境に対する責任を果たしていく指針として、「ミルボングループ環境方針」を定め、カーボンニュートラルと再生・循環型の生産消費活動の取り組みを推進します。

<p>1 地球環境の保護</p>	<p>ミルボンは、バリューチェーン全体において、GHG（温室効果ガス）におけるCO2の排出量削減や水資源の有効活用、廃棄物削減、リサイクル資材の積極活用等に取り組み、地球環境の負荷軽減及び、生物多様性の保全に努めます。</p>
<p>2 環境・安全に配慮した製品の開発</p>	<p>ミルボンは、製品、技術の開発にあたっては、開発から廃棄までの流れにおいて、環境への影響を考慮した製品開発に努め、環境負荷の少ない技術、原材料の研究開発にも積極的に取り組みます。</p>
<p>3 環境保全活動を推進するための組織、体制の整備</p>	<p>ミルボンは、取締役会及びサステナビリティ推進委員会を中心として、関係部門との連携を強化し、全社環境保全活動を推進します。また、生産拠点をはじめ各事業所に適した環境マネジメントシステムの積極的な導入、運用を推進します。</p>

<p>4 環境関連の法律、規則の遵守</p>	<p>ミルボンは、事業活動のあらゆる場面や、活動を行う全ての地域における環境関連の法律、規則を遵守するとともに、必要に応じて自主的な規制を設け、環境負荷低減に努めます。</p>
<p>5 教育の実施</p>	<p>ミルボンは、社員一人ひとりが、地球環境の保護に対して責任ある行動をするために、教育活動を継続的に実施します。</p>
<p>6 自主評価と情報開示による社会からの信頼向上</p>	<p>ミルボンは、環境関連活動について自主的に定期的な監査・評価を行うとともに、積極的な情報開示に努め、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、信頼向上に努めます。</p>



環境への取り組み - 気候変動への対応 -

気候変動対策への考え方



ミルボンでは、気候変動問題が中長期にわたり経営戦略や財務計画に与える影響の重大性を踏まえ、最重要課題の一つとして位置付け、TCFDのフレームワークを参照した情報開示を行っています。脱炭素推進を迅速に判断できる組織を構築するとともに、全てのステークホルダーに気候変動関連情報を開示し、対話を進めることでこれを推進していきます。

ガバナンス・リスクマネジメント

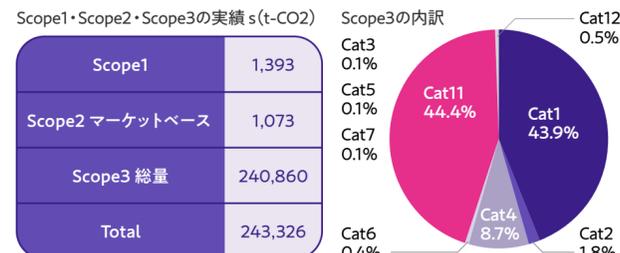
ミルボンではカーボンニュートラル目標の実現に向け、具体的な対策検討、グループ内への展開、取り組みの進捗管理・モニタリングを担う「TCFD・TNFDワーキンググループ」を、サステナビリティ推進委員会の下に設置しています。取り組みの進捗状況は、サステナビリティ推進委員会に報告しています。同ワーキンググループは活動状況を半期に1回サステナビリティ推進委員会を通じて経営会議及び取締役会へ報告し、取締役会の監督を受けています。



指標・目標

	2026年	2030年
石油由来バージンプラスチック削減目標 (2020年比・売上高あたり使用量)	15%	30%
RSPO認証パーム油採用率 (MB+B&C)	50%	100%
	ゆめが丘工場	ミルボングループ
CO2削減目標 (Scope1・2)	2026年： 75%削減 (2019年比) 2030年： カーボンニュートラル	2050年： カーボンニュートラル

2024年CO2排出量実績



シナリオ分析と対応策

ミルボンでは2023年、ミルボングループの中核である(株)ミルボンを対象範囲としてシナリオ分析を実施しました。シナリオ分析では、IEA・IPCCが示したシナリオをもとに、1.5℃及び4℃の気温上昇を想定し、2025年時点(短期)・2030年時点(中期)・2050年時点(長期)の3つの時期に関して気候変動によるリスクと機会を検討・分析した上で、対応策を検討・推進しています。

	リスク機会の内容	リスク/機会	時間軸	影響度	想定する対策等
1.5℃シナリオ					
原料調達	サプライヤーへのカーボンプライシングの導入・拡大による調達コスト増	リスク	2030年	大	<ul style="list-style-type: none"> 国際情勢リスク、気候変動リスクにおいて、調達ルートやトレーサビリティを調査 原料確保のため、効率的な調達購買手法の検討 カーボンプライシングによるサプライヤーへのコスト増を概算、商品価格への上乗せ検討、代替原料の検討 RSPO認証パーム油の積極採用。2030年までに認証パーム油、マスバランス品を100%採用目標 石油由来バージンプラスチックを2030年までに30%削減する目標に向け、新製品容器への植物由来プラや樹脂量削減の成型方法を積極採用 プラスチック容器のリサイクル処理方法の研究 カーボンプライシングによる容器包装原料のコスト増を概算、商品価格への上乗せ検討、代替原料の検討
	森林保護への法規制による、土地利用への制限に伴う調達コスト増	リスク	2025年	中	
	原料のトレーサビリティに関する法規制強化による調達コスト増	リスク	2030年	中	
自社操業	自社へのカーボンプライシングの導入・拡大による操業コスト増	リスク	2030年	小	<ul style="list-style-type: none"> WE2021.2022のNZEシナリオにおける炭素価格を用いて、Scope1・2にかかるカーボンプライシングコストを試算 電力コスト上昇の見通しから、自家消費発電の割合を拡大 各種規制の把握、コスト増の影響度によっては、他原料への切り替えや製品への転嫁も想定 EUを中心とした法規制への対応コストと社内体制の確立
	電力小売価格の上昇によるエネルギーコスト増	リスク	2030年	中	
	各国拠点での法規制強化によるコンプライアンスコスト増	リスク	2030年	中	
	サーキュラーエコノミーへの対応コスト増	リスク	2030年	中	
	他社がカーボンプライシングの影響を受け、自社の競争力が向上することによる売上増	機会	2030年	中	
自家発電導入による排出量とエネルギーコスト減	機会	2030年	中		
需要商品	環境配慮商品の売上増	機会	2030年	中	<ul style="list-style-type: none"> 生活者ニーズに対応した、商品機能向上と環境負荷を低減する商品開発
4℃シナリオ					
原料調達	気候変動によるパーム油等植物由来原材料の調達コスト増	リスク	2050年	大	<ul style="list-style-type: none"> 代替パーム油の研究や処方対応を検討 気候変動によるパーム油調達価格変動を概算 原料や調達ルート確保の研究 原料毎の気候変動による影響度を確認 主要天然原料の原産国における気候変動調査や保護活動
	安定した原料調達のための取り組みによる調達コスト減	機会	2030年	中	
自社操業	損傷した生産設備の修復にかかるコスト増	リスク	2050年	小	<ul style="list-style-type: none"> 災害によって生産設備が損傷した場合でも、保険の適用内で修復が可能であることを確認 災害時は一部物流倉庫への影響が懸念される為、代替輸送を予め想定
	洪水や台風被害による配送への影響による、売上減や在庫毀損によるコスト増	リスク	2050年	小	

環境への取り組み - 水資源への対応 -

水資源についての考え方

ミルボンでは、主力であるヘアケア剤をはじめとして、多くの製品において水を使用しており、お客様が製品を使用される際にはすすぎを必要とするなど、事業活動のあらゆる場面で水は切り離せない存在であると認識しています。水資源の保全においては、各事業地域の水ストレスの詳細把握や、節水、循環利用などの有効活用に努め、積極的な保全活動を推進していきます。

ゆめが丘工場における取水および排水の実績および水ストレス調査の内容

ゆめが丘工場における取水および排水の実績データ

	2021年	2022年	2023年	2024年
水使用量 (m ³)	47,219	50,261	47,138	48,309
放流先別排出量「総計」(m ³)	26,214	29,992	26,359	28,049

ゆめが丘工場における水ストレス調査の結果ストレス度

ゆめが丘工場における水ストレスの調査を行った結果、ストレス度は『低 (Low*)』と判定されています。

*Aqueduct Country RankingにおけるBaseline Water Stressを用いて評価

水使用量削減目標

2026年までに、国内生産拠点におけるゆめが丘工場において、水使用量原単位 {水使用量 (m³) /生産量 (t)} を2021年対比4%以上の削減を維持します。

	2021年	2022年	2023年	2024年
水使用量 原単位 (m ³ /t)	4.900	4.690	4.665	4.366

水使用量削減の取り組み

純水装置の導入

ゆめが丘工場において、環境負荷軽減の観点から2021年に新たな純水装置を導入しました。以前の装置と比較して純水の回収率が20%向上したことで、翌年2022年には製造に使用する純水の年間使用量は2021年対比約2,000m³削減しており、以降、継続的に水使用量の削減につなげています。



部品洗浄機の導入

ゆめが丘工場において、生産設備部品の洗浄をより効率的、効果的に改善させることを目的として2023年に新たに部品洗浄機を導入しました。手洗浄と比較し、洗浄力の向上、節水及び洗浄時間の短縮に繋がり、生産性の向上と合わせ、水使用量の削減を実現します。



排水への配慮

第三者機関と自社による定期的な点検・分析

ゆめが丘工場では、公害を未然に防止し、地域住民の健康と生活環境の保全を目的とした環境保全協定を向上が所在する三重県伊賀市と締結しており、その遵守項目に合わせて、毎月、放流水が協定で定められた規制値内の値であるかの分析を第三者機関へ依頼しています。日常点検においては自社で検査を行い、規制値を下回る状態を維持するための取り組みを行っています。

排水経路の水質調査

ゆめが丘工場がある三重県伊賀市において、市民団体「魚と子どものネットワーク」とともに、工場で使用した水が海へ至るまでの直接的な排水経路となっている久米川及び木津川の水質調査活動を継続的に行っています。



環境への取り組み - 廃棄物や環境汚染への対応 -

廃棄物や環境汚染についての考え方

ミルボンは、ヘア化粧品及び医薬部外品、関連器具の生産を行うメーカーとして、容器包装の省資源・リサイクル化に努め、廃棄物の削減及び環境負荷のある物質の排出量削減を積極的に実施します。上記の実現においては、当社のみならず、地域社会、パートナー様とともにこれを推進することで、パートナーシップを通じた貢献も重要であると考えています。

容器・包装における具体的な取り組み

化粧品における容器・包装は、品質を安定に保ったままお届けする役割のほか、製品についての様々な情報や世界観を伝える大切な役割も担っています。一方で、化粧品は消耗品でもあります。役目を終えた後の容器・包装物はいずれ廃棄されます。廃棄に至るそのときまで、環境負荷にも配慮して、ミルボンでは容器・包装の研究開発を行っています。

Reduce

● 詰め替えパウチキャップレス化及びキャップ小型化



● 二次元コードラベルのレーザー印字化



Recycle

● 「水平リサイクル」を目指す 「神戸プラスチックネクスト～みんなでつなげよう。 つめかえパックリサイクル～」への参画



Reuse

● 詰め替えパウチ仕様の推奨



Replace

● バイオプラスチックの積極的な採用



● FSC®認証紙及び古紙の積極的な採用



商品の製剤における具体的な取り組み

ミルボンでは、商品の製剤についても容器・包装と同様に、環境に配慮した製造方法の実施と、サステナビリティに配慮した原料の調達活動を行っています。

● 低エネルギー製法の実現

低エネルギー製法とは、製剤の調合工程において使用する総エネルギーを削減しつつ各商品に適した攪拌・乳化を行うことで、CO2排出量の削減を実現した環境負荷を抑えた製造方法のことです。特定の製品において、低エネルギー製法でも品質に影響が出ないように科学的な品質確認を行いながら、エネルギー削減を実現しています。今後も低エネルギー製法を用いてより多くの商品開発に取り組んでいく予定です。



低エネルギー製法を実現した商品例（一部）

- RSPO認証油の採用
- オーガニック原料を中心としたヘアカラー製品の開発（新規）
- 国産たけのこの皮から抽出した「モウソウチクたけのこ皮エキス」の原料採用



PJOLI（プジョリ）ブランドにおける環境配慮への取り組み

当ブランドのすべての知販品容器に、最大限植物由来プラスチックを配合していることに加え、化粧箱には難古紙*を配合し、FSC認証も取得した紙を使用しています。また、シャンプー及びトリートメントボトルは全てのサイズで詰め替えを想定した設計になっています。

*飲料系古紙などのリサイクルが難しい古紙のこと。通常可燃ごみや産業廃棄物として捨てられてしまうものを、リサイクル技術に特化した製紙メーカーが紙として再生

環境への取り組み - 生物多様性への対応 -

生物多様性についての考え方

ミルボンは、美しさを通じた心の豊かさを提供する「美」のメーカーとして、生物多様性がもたらす社会全体の恵みや豊かさを重視し、地球環境保全への積極的な活動を行います。パーム油における環境問題については当社も重要テーマとして認識し、生産工場におけるサプライヤー認証を取得するなど、積極的な推進を進めています。

生物多様性保全への取り組み

「生物多様性のための30by30 アライアンス」に参画

「生物多様性のための30by30アライアンス」とは、2021年6月のG7サミットで合意された「G7 2030年自然協約 (G7 2030 Nature Compact)」に基づき、生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸域と海域の少なくとも30%を保全・保護することを目指し、環境省が発起人となり、企業、自治体、NPOなどが集まり設置されました。国立公園の拡充や里山、企業林などをOECM*

として国際データベースに登録することを促進し、その取り組みを積極的に発信することを目的としています。

*Other Effective area-based Conservation Measuresの略
民間等の取り組みにより保全が図られている地域や、保全を目的としない管理が結果として自然環境を守ることにも貢献している地域



生物多様性保全活動の実施

2024年5月に亀山里山公園「みちくさ」において生物多様性保全活動を実施しました。本活動は、「自然共生サイト」へ登録された亀山里山公園「みちくさ」がどのような配慮のもと生物多様性の価値を長期に渡り保全することが可能な場所として認定されたのかについて園内を周遊しながらレクチャーを受け、園内のため池に生息するアメリカザリガニ（特定外来生物）を駆除する体験を通じて生態系を維持することの難しさを学びました。今回の学びを受け、ゆめが丘工場の自然共生サイト化へ向け検討を進めてまいります。ミルボンでは自社のオペレーションだけでなく、地域をはじめとしたすべてのステークホルダーとともに生物多様性の共存に貢献していきます。



RSPO認証パーム油の採用

ミルボンでは、製品の主要原料の一つであるパーム油の持続可能な調達に取り組んでいます。当社製品の主要原料であり、世界的にも需要の高いパーム油を持続可能な形で使用していくため、2019年にRSPOへ加盟。一部原料より認証パーム油への切り替えを進めています。

当社製品の主要原料として使用されている全てのパーム油について、2030年までにRSPOのMB (Mass Balance) またはBC (Book & Claim) 認証を受けた原料を使用を目指しています。

2022年には、当社基幹生産工場であるゆめが丘工場において、サプライチェーン認証の取得が完了いたしました。

上記取り組みは、当社におけるサステナビリティ「5つの最重要課題」として設定しており、中長期的な目標を掲げ、取り組みを推進しております。

サステナブルな研究開発 - 化学物質の安全な使用と管理 -

化学物質の安全な使用と管理についての考え方

ミルボンでは、商品開発から原材料の調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までの全ての過程において、地球環境に対する責任を果たしていく指針として、「ミルボングループ環境方針」を定めており、化学物質を使用する化粧品メーカーとして、その安全性管理を重要な課題と認識し、取り組んでいます。

取り組みの方向性

1 化学物質のリスク対策

環境・安全性に関して科学的根拠に基づき懸念の発生した化学物質については、製品や研究への使用に対して制限を加え、お客様に安心して使っていただける製品開発をすると同時に、環境への影響を最小化する対応をいたします。

2 化学物質の安全性確認

使用する化学物質については文献やデータベースによる各種安全性項目・環境への影響の確認と取扱者への定期的な教育を行い、適切な使用・廃棄が行われるよう管理を行います。

3 化学物質の管理状況の公開

PRTR法に基づく第一種指定化学物質の排出量の公開を行います。

4 化学物質の取り扱い・廃棄に関する社内教育

- 危険物取扱者の資格取得を奨励し、化学物質取り扱い者の知識向上に取り組んでいます。
- 化学物質取り扱い者に対して定期的に危険物や特別管理廃棄物の教育を行い、適切な装置・環境下での取り扱いの徹底と法令を遵守した分別廃棄を行っています。
- 廃棄物の処理は専門業者を通じて適切に処理し、定期的に処理現場の視察を行っています。
- 定期的な環境測定を行い、有害な化学物質が環境中に放出されていないか確認をしています。

管理体制

ミルボンでは、化学物質を使用する「生産本部」及び「開発本部」において、製品及び研究に使用する化学物質の管理を行う部門を設定し、定期的な管理状況の確認、新たな安全性の知見収集や規制の設定、取り扱い者への定期的な教育、国への化学物質の使用状況報告などを実施することで、法規遵守した使用を実施しています。

具体的な取り組み

特定の成分の化粧品製品への対応状況

● マイクロビーズ・マイクロプラスチック

一般的にマイクロビーズと呼ばれる0.001mm~0.1mm程度のビーズ状成分については海洋汚染や魚類による捕食が懸念されていますが、ミルボンでは化粧品内容物への使用を禁止しております。またEUにおいてはそれを発展させたマイクロプラスチックと言われる成分の規制が発表されており、EU圏外も含めて、今後配合をしない方針を立てています。

● 有機フッ素化合物

(PFAS : Per-and polyfluoroalkyl substances)

PFASと呼ばれる有機フッ素化合物は環境に残りやすい成分として、欧米各国において規制の動きが強まっています。ミルボンでは2024年中より化粧品内容物への配合を完全撤廃するとともに、欧米以外の国においても今後配合をしない方針を立てています。

化粧品生産における対応

日本の化学物質管理促進法（PRTR法）を遵守し、該当する化学物質の移動・排出を管理しています。この管理内容に基づき、毎年の排出量から将来における化学物質の自主使用管理及び排出の削減を検討しております。

PRTR法に基づく第一種指定化学物質の排出量 (2023年4月~2024年3月)

化学物質		排出量 (kg)			廃棄量 (kg)		
番号	名称	大気	公共用水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物
20	2-アミノエタノール	0	0	0	0	0	26.0
275	ドデシル硫酸ナトリウム	0	0	0	0	0	160.0
348	バラフェニレンジアミン	0	0	0	0	0	7.4
389	ヘキサデシルトリメチルアンモニウムクロリド	0	0	0	0	0	36.0
407	ポリ(オキシエチレン)ニアルキルエーテル	0	0	0	0	0	34.0
409	ポリ(オキシエチレン)ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム	0	0	0	0	0	230.0
574	(3-アルカンアミドプロピル)(ジメチル)アンモニオアセート	0	0	0	0	0	110.0
601	オクタメチルシクロテラシロキサン	0	0	0	0	0	13.0
688	トリメチル(オクタデシル)アンモニウムの塩	0	0	0	0	0	4.3
700	ビス(アルキル)(ジメチル)アンモニウムの塩	0	0	0	0	0	6.0
738	メチル-2-(3-オキシ-2-ベンチルシクロペンチル)アセート	0	0	0	0	0	4.8

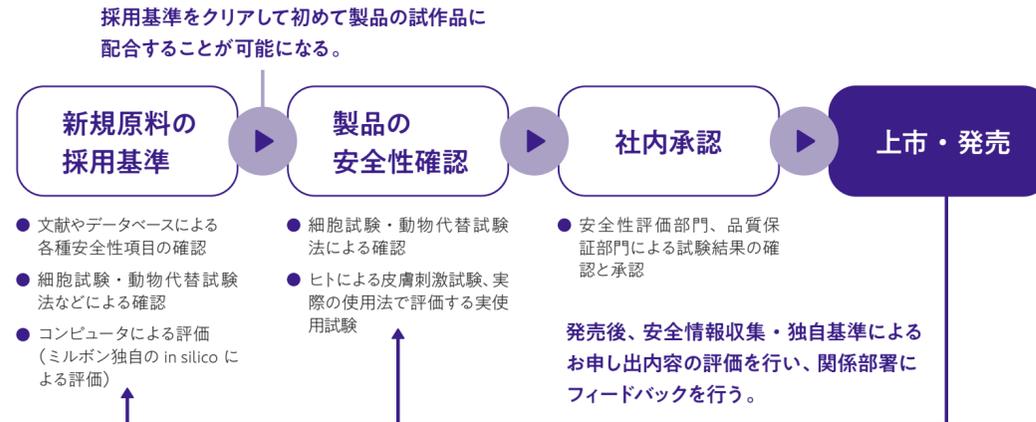
サステナブルな研究開発 - 安全性、安定性 -

安全性、安定性についての考え方

ミルボンではヘアデザイナー、そしてお客様が安心して製品をご使用いただけるよう、安全で安定した製品開発に取り組んでいます。

安全性保証体制

ミルボンでは、製品に触れる皆様に安心してお使いいただけるよう、ミルボン独自の安全性基準をクリアする製品開発を実施しています。製品の発売後も安全性試験法の追及を行い、日々安全性保証体制の向上に努めています。



安全性研究

独自の安全基準、試験

ミルボンでは、使用する化粧品原料と化粧品製剤に、長年のサロンワーク研究から蓄積された知見をもとに安全性基準を設定しています。安全性評価と品質保証の両部門で、文献やデータベースから安全性情報を調査した後、細胞試験や動物実験代替法による試験で十分な安全性を確認。さらに、実際の使用環境に応じた様々な使用テストや、皮膚科専門医の判定による皮膚刺激性の委託試験（外部試験機関での試験）といった厳しい試験をクリアしたもののみを商品化しています。

命を犠牲にしない安全性試験

医薬部外品も含め化粧品の安全性試験において動物実験を廃止する動きは、世界的な高まりを見せています。ミルボンはこの考えに賛同し、現在、外部委託も含めて一切の動物実験を行っていません*。その上で、製品の安全性がしっかり保てるよう、培養細胞や人工の培養皮膚等を用いた動物実験代替法による安全性試験を行っています。

*社会に対して安全性の説明責任が生じた場合や、行政から求められた場合を除く

製品の安定性検証

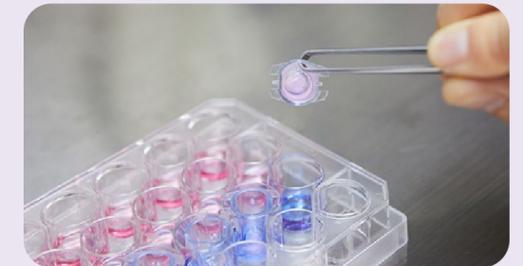
世界のどんな環境でも高い品質を安定的に保てるように

国や地域によって気温や湿度をはじめとした環境が異なる中、ミルボンでは、多様な環境下でも製品が高い品質を保てるよう安定性を徹底して検証しており、次のような独自の安定性試験に合格した製品のみを販売しています。

- ① 氷点下から高温まで、あるいは直射日光の有無など様々な条件下で製品を長期間保管、製剤変化を確認する「加速試験」「過酷試験」を実施
- ② 「加速試験」「過酷試験」とは別に、完成した製品は3年以上室温で保管、定期的に状態を確認
- ③ pH、粘度、比重、有効成分濃度など科学的な測定による確認と、剤型色、香り、質感、手触り、染色試験など人による官能評価を実施
- ④ 生産段階では、初回生産品など特定のタイミングで、美容室を模した「工場評価室」において、美容技術を持った専門の評価試験者が実際の使用感をチェック

● 再生皮膚モデルを使った刺激抑制技術による数値化

ミルボンでは、安心してヘアカラーを楽しんでいただきたいという想いから、ヘアカラーと頭皮の刺激抑制研究に取り組んでいます。表皮の細胞をシート状に培養し再生した人工培養皮膚である「再生皮膚モデル」と、人が感じる刺激による評価結果を一致させるために研究を重ねた結果、ヘアカラー中に感じる刺激を再生皮膚モデルによって数値化することに成功。この技術は、現在ヘアカラー製品の開発に広く活用されています。



● 動物にも、人にも、地球にも優しい安全性評価法の開発

ミルボンでは、より高い安全性を確保していくために、コンピュータ計算による安全性の予測研究を進めており、物質同士の「なじみやすさ」を計算する Hansen 溶解度パラメータ法を利用することで、物質の眼刺激性を高精度に予測する方法を開発しました。動物実験の必要がなく、コンピュータ計算によって予測されるこの評価方法は、動物にも人にも地球にも優しい安全性評価法となっています。本研究は関西大学環境都市工学部山本秀樹教授の技術指導のもとで行われました。

サステナブルな研究開発 - 生産活動を通じた取り組み -

生産活動におけるサステナビリティへの考え方

ミルボンでは、生産活動においてミルボングループ環境方針に基づきCO2排出量削減や廃棄物の削減、水資源の有効活用、リサイクル資材の積極的活用等に取り組み、地球環境への負荷軽減及び、生物多様性の保全に努めています。

ISO認証による持続可能な生産体制

ミルボンでは、国内基幹生産工場である「ゆめが丘工場」において環境マネジメントの観点からISO14001の認証を取得しました。環境に関する方針、目標の設定、活動の推進、規制の遵守状況確認、化学物質の適正な管理、社員教育を行い、PDCAサイクルを繰り返すことによって環境負荷の軽減を実現しています。また、品質保証体制のグローバル化を進めるため化粧品GMPの国際規格であるISO22716認証の取得。ならびにISO45001の認証取得により、労働安全衛生マネジメントシステムを展開し、労働災害ゼロを目標と定め、重大事故の発生防止に努め起こり得る緊急事態への準備及び対応のために必要なプロセスを確立することで、高品質な製品を安全かつ持続的に提供するための生産体制を構築しています。



- ※ISO45001
労働安全衛生マネジメントシステムに関する規格。あらゆる職場において、安全な労働環境を整えるための枠組みを示している
- ※ISO22716
化粧品の製造に関する品質・安全性に関する規格。化粧品を製造するにあたって、一連のプロセスに関する管理基準が定められている
- ※ISO14001:2015
環境マネジメントシステムに関する規格。社会経済的ニーズとバランスをとりながら、環境を保護し、変化する環境状態に対応するための枠組みを示している

環境負荷低減に向けた取り組み

エネルギー低減における活動

- 太陽光発電システムの導入
- FEMS (ゆめが丘工場内エネルギー管理システム)
- CO2フリー電力100%購入
- 水使用量の削減につながる純水装置、部品洗浄機の導入
- 新技術導入による都市ガス使用量の削減
- RSPO認証原料の取り組み
- 調合タンクの生産効率化と蒸気加熱の利用
タイムコントロールによるエネルギー量の低減



物流における活動

- 物流会社と共同した積載効率の向上
- ドライバーの拘束時間及び物流作業負荷の軽減

生物多様性保全における活動

ゆめが丘工場は、生産拠点としての役割に留まることなく、地域と共生しながら持続可能な発展を目指しています。そのため、自社のオペレーションにおけるサステナビリティ配慮だけでなく、使用した水が海へ至るまでの排水経路の水質調査をはじめ、子どもたちへの次世代教育など地域と連携した活動へ積極的に取り組んでいます。また、2024年からゆめが丘工場敷地内にある緑地エリアを自然共生サイト化することを目指し、生態系ネットワークに資する環境調査を始めています。



サステナブルな研究開発 - サプライチェーンマネジメント -

サプライチェーンマネジメントについての考え方

ミルボングループでは、サステナビリティ基本方針に基づき、持続可能な美容産業の創造、持続可能な社会の実現に向けて、事業活動を行っております。当社事業の推進にあたっては、サプライヤーの皆様とともに作り上げる持続可能なサプライチェーンの確保は重要な課題の一つであり、法令を遵守した公平・公正な購買調達活動や、自然資源の保護、環境保全、人権などに配慮し、これを実現します。

ミルボンサステナブル調達基本方針

基本方針

① 公平で公正な取引の実現

私たちは、購買取引にあたって、国内外を問わず全てのサプライヤー様に公平な競争の機会を提供します。また、お取引にあたっては、品質・価格・納期・経営の安定性・供給能力等を総合的に勘案し、公正にお取引先を決定します。

② 法令や社会規範の遵守

私たちは、購買取引にあたって、関連する法令遵守の徹底、社会規範に則した取引を行い、自然資源保護、環境保全、人権などに配慮し、社会的責任を果たす取り組みに努めます。また、お取引先との接待・贈答等は社会常識の範囲内とし、ミルボングループ倫理行動指針に準じて行います。

③ 相互の発展

私たちは、調達活動を通じ、お取引サプライヤー様との共存共栄を図り、長期的な信頼関係の構築、相互の発展を目指します。

④ 情報の保護

私たちは、購買取引を通じて知り得たお取引先の機密情報及び個人情報を守秘します。

サプライヤーの皆様への要請項目はリンクよりご確認ください

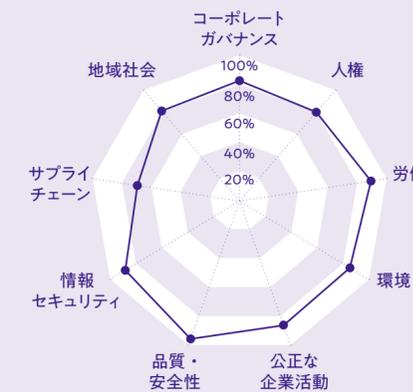
<https://www.milbon.com/ja/sustainability/humanrights/action06.html>

● サプライヤーへのアセスメント調査の実施

ミルボンでは、年1回サプライヤーの皆様へのアセスメント調査を実施させていただくこととしています。調査の目的は、サプライヤー様におけるサステナビリティに関する取り組み状況の把握、及び当社のサプライチェーン上における課題を認識することにあります。調査の結果概要はサプライヤー様と共有し、ともに改善に向けた取り組みを検討、推進していきます。調査方法としては、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下、GCNJ SAQ）が作成したセルフ・アセスメント質問表へのご回答依頼、またはEcoVadis加盟企業様においてはスコアカードの結果を共有いただき、調査を行っております。

GCNJ SAQの結果サマリー

全体の平均得点率は85%で、全ての調査項目において、昨年度より評点が向上しています。最も得点率が高い項目は引き続き「品質・安全性」であり、「人権」「サプライチェーン」といった項目での得点率が相対的に低い状況は変わっておりません。概ね、得点率は高水準と見られますが、得点率が比較的低い水準の項目や、個別のサプライヤー様の課題と感じられている部分においては、本調査結果のフィードバックや、活動支援、協議を行った上で、引き続き、より持続的なサプライチェーンの構築に活用していきたいと考えています。



調査項目	2023年度 平均得点率	2024年度 平均得点率	設問数
コーポレートガバナンス	79%	83%	20
人権	75%	80%	9
労働	87%	90%	23
環境	79%	84%	15
公正な企業活動	80%	85%	20
品質・安全性	92%	94%	7
情報セキュリティ	86%	87%	9
サプライチェーン	75%	76%	7
地域社会	77%	82%	4
総合	80%	85%	114

EcoVadisの結果サマリー

当社基幹生産拠点であるゆめが丘工場（三重県伊賀市）が2023年から2年連続で「ゴールド」評価を獲得いたしました。全体の総合点平均は59.6と、EcoVadisが発行する年次報告書に記載の最頻値である45-54を上回る結果となっています。「環境」のスコアリングが最も高く、「持続可能な調達」のスコアリングが相対的に低くなっております。GCNJ SAQと同様に本調査結果のフィードバックや、活動支援、協議を行った上で、より持続的なサプライチェーンの構築に活用していきたいと考えています。

	総合	環境	労働と人材	倫理	持続可能な調達
2023年度 平均得点率	59.6	66.5	60.3	54.5	53.9
2024年度 平均得点率	63.0	67.8	62.3	58.5	57.0

👥 Social - 人と社会への取り組み -

ミルボングループ 人権方針

ミルボングループ（株式会社ミルボン及びその連結子会社を含む。以下、ミルボン）は、その事業組織の哲学をもとに、経営理念・サステナビリティ基本方針として「ミルボンは、ヘアデザイナーを通じて、美と心の豊かさに繋がる美容産業を創造することで、持続可能な社会の実現をめざします。」と「THE MILBON WAY」に定め、広く社会から支持される企業であり続けることを目指しています。

ミルボンは、バリューチェーン全体において、人権を尊重する責任を果たしていく指針として、「ミルボングループ人権方針」をここに定め、人権尊重の取り組みを推進します。

人権に対する基本的な考え方

ミルボンは、人権尊重の重要性を認識し、次の国際規範や原則を支持し尊重します。

- 国連の「国際人権章典」（「世界人権宣言」、「市民のおよび政治的権利に関する国際規約」、「経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約」）
- 国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」
- 国連総会決議の「先住民族の権利に関する国際連合宣言」
- 国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」

そして、国連グローバルコンパクト（以下、GC）の署名企業として、GCの10原則を支持し尊重しています。

ミルボンは、あらゆる形態の強制労働、人身取引、児童労働、差別やハラスメント等の人の尊厳を損なういかなる行為も許容しません。また、社員との対話を大切にしながら労働条件や社員の働く環境について改善に努め、結社の自由、団体交渉権、及び同一労働同一賃金の保証を含めた労働に関する基本的な権利を尊重します。また、過重労働の撲滅及び法定最低賃金の遵守はもとより、地域・業界の労働市場と比較しても競争力のある生活賃金の支給に努めます。そして、国際的な人権原則と各国・地域の法令が異なる場合、可能な限り国際的な人権原則を尊重する方法を追求します。

—上記、人権方針（<https://www.milbon.com/ja/sustainability/humanrights/policy.html>）より抜粋—

人と社会への取り組み - 人的資本経営について -

人的資本に関する考え方

ミルボンには、「すべては、ヘアデザイナーとともに」という創業以来の想いととも、「つぶれない会社を創る」という信念があります。これは創業者・鴻池一郎が当社の創業前、企業の倒産劇に巻き込まれた親しい方々の悲惨な姿を目の当たりにした際に固く誓った想いであり、そこには「社員とその家族の幸せと仕事のやりがいの実現」という決意が込められています。だからこそ当社では創業以来、一貫して「人」を大切にされた経営にこだわり続けています。

また、当社の美容室に徹底的に寄り添う独自のビジネスモデルの遂行には、「人」を起点とした独自の価値創造が不可欠であり、当社の歩みは、「人の成長こそが企業の成長につながる」ということを体現してきた歴史でもあります。そのため当社では、「人的資本」を経営及び企業の持続的成長に必要な不可欠な最重要資本と捉え、経営戦略と連動した人材戦略に取り組んでいます。

中期事業構想（2022-2026）における人的資本に関する戦略

当社では、現在遂行している中期事業構想（2022-2026）の実現に向け、人材戦略基本方針～社員一人ひとりがミルボンのエンジンになる～「社員一人ひとりが、自主自立の精神で、“やりがい”をもって、ミルボンの持続的成長を支え、働き続けられる企業風土を醸成する」を掲げた上で、「5つの人材戦略重要テーマ」を設定し、社員の“働きがい”の醸成と“働き続けられる環境”の整備を進めています。「5つの人材戦略重要テーマ」と中期事業構想（2022-2026）を密接に連携させることで、持続的成長の源泉となる新たな付加価値を創造し続け、「美容室の増収増益」に貢献します。

KPI及び目標一覧

テーマ	KPI	2025年目標	2026年目標	2030年目標
①次期後継リーダー育成	次期後継リーダー育成	次々期経営責任者育成プログラムの実施		
②働きがいの醸成	若手社員の離職率 ※直近5年の若手社員(新卒-3年目)の離職率平均		9%	6%
	有給休暇取得率		70%	80%
	エンゲージメントサーベイ		重要指標3領域が 強みとして機能している状態	
③タテヨコナナメの対話増進	社内コミュニケーションの円滑化	ミルボンパーソンディスカッションの実施		
④DE&Iの推進	女性管理職比率			20%

人的資本経営に関する戦略の全体像



報酬方針

人材戦略を支える基盤

採用～育成方針

人と社会への取り組み - 5つの人材戦略の進捗と取り組み -

人材戦略重要テーマ1：次期後継リーダー育成

次期後継者育成プログラムの開発と実施、中長期的な人・組織のレビュー（人材開発委員会）の定期的な開催

KPI

次期後継リーダー育成

2024年実績

30代の若手リーダー候補を対象とした
「MCU-Prep」の企画・設計

2025年目標

次々期経営者育成プログラムの実施

10年、20年先を見据え、若手リーダー候補の育成プログラムを始動

ミルボンでは2014年に、10年後となる2024年の後継体制移行を見据えて、独自の次期経営責任者育成プログラム「ミルボンコーポレートユニバーシティ（以下・MCU）」を立ち上げており、2015年から2019年までの4年半で受講した42名のうち、現在までに3名が取締役、8名が執行役員に登用されています。体制移行が果たされた現在は、次なる10年、20年先を見据えたサクセッションプランとして、次期MCUのスタートに先駆け、30代の次々期経営者リーダー候補を対象とした「MCU-Prep」を2025年からの3年間実施する計画としています。

また、代表取締役社長を委員長とした「人材開発委員会」を新設し、人と組織にまつわる課題・施策の継続的な議論等を行う体制を整えており、今後もリーダーが流れるように生まれる企業体の実現へ改革を続けていきます。

人材戦略重要テーマ2：働きがいの醸成

ヒアリングやサーベイを活用した組織課題の発見・解決策の企画・実践と進捗発信

KPI①

若手社員の離職率

※直近5年の若手社員（新卒～3年目）の離職率平均

2024年実績

11.7%

2026年目標

9%

2030年目標

6%

KPI②

有給休暇取得率

2024年実績

72.9%

2026年目標

70%（前倒しで達成）

2030年目標

80%

KPI③

エンゲージメントサーベイ

2024年実績

エンゲージメントサーベイ実施
重要項目・目標の設定

2026年目標

重要指標3領域が
「強み」として機能している状態

制度と風土の両面から“働きがい”を持って働ける環境づくりを推進

ミルボンでは、当社にマッチする人材要件や経営理念・ビジョン・ビジネスモデルと連動した採用施策、入社後の取り組みにより人材定着を促進しており、2024年度は推進強化へ、DE&Iプロジェクト主導で営業職の価値観・働き方に関するアンケートを実施しました。また、多様な働き方の推進に向けては、年次有給休暇の計画的付与制度とフレックスタイム制等を導入しているほか、2024年度は担当部内でプロジェクトを発足し、計画的付与制度の拡充、フレックスタイム制度の対象部門の拡張、衛生委員会での啓発活動強化を実施したことなどにより、有給休暇取得率は72.9%と、2026年目標を2年前倒しで達成しています。

エンゲージメントサーベイでは、コンプライアンス意識調査を含めて、経営報告及び各部門への報告・対話、アクションプランの作成・実践を行っています。総合のエンゲージメントスコアは他社と比較しても高い組織状態を維持していますが、当社では「理念戦略」「外部適応」「変革活動」の3領域を重要指標に定め、これら3領域の「期待度」「満足度」の双方が高く、強みとして機能している状態を目指して、今後も施策の立案と実行を継続していきます。

人と社会への取り組み - 5つの人材戦略の進捗と取り組み -

人材戦略重要テーマ3: タテヨコナメの対話増進

情報の可視化・透明化と交流の場の設計による世代・部門・役割の壁の低減

KPI

社内コミュニケーションの円滑化

2024年実績

社長自らがフィールド
パーソンディスカッションを
全19営業拠点で実施

2025年目標

ミルボンパーソン
ディスカッションの実施

社長自ら19営業所でのディスカッションを実施し、 対話と交流を増進

ミルボンでは、直近10年間で社員数が連結で約1.8倍となり、部門・階層の広がりや多様な属性を持つ社員が増加していることに伴って、関係性の希薄化によるリスクが懸念されることから、全社や組織ごとに実施している「THE MILBON WAY」の共有会を引き続き強化・継続していくとともに、年代・部門・階層を超えた対話の機会の増進を図っています。2024年は、当社社長の坂下秀憲が全19営業所に自ら足を運んで、当社営業・教育職と対話する「フィールドパーソンディスカッション」を実施したほか、労使協議を通じた各事業所の社員同士及び人事担当者との情報交換会、さらには昇格者研修時にも他部門との交流の機会を創出することで、相互理解の促進を図りました。

2025年度は、「フィールドパーソンディスカッション」で可視化された施策や課題解決に向けた取り組みを実行するとともに、社長の坂下が営業・教育職を除く全部門との「ミルボンパーソンディスカッション」を計20回開催します。あわせて、社内コミュニケーションコンテンツの新設に向けた検討も進めていきます。

人材戦略重要テーマ4: DE&Iの推進

人種、性別、障がい有無、性的指向、育児や介護との両立などにかかわらず、活躍できる風土づくり

KPI

女性管理職比率

2024年実績

14.5% (前年比+3.6ポイント)

2030年目標

20%

多様性・人格・個性を尊重し、 社員それぞれの能力を最大限に発揮できる企業へ

ミルボンでは、多様性が尊重される時代における多様な価値創造の実現には、当社自身が多様性のある企業となければならないと捉えており、「DE&Iの推進」はそうした進化への不可欠な取り組みであると考えております。そのため、2023年より全社プロジェクトとして「DE&I推進プロジェクト」を発足し、まずは人数・割合ともに多く、今後の当社の事業成長の核となる女性営業・教育職の活躍とキャリア継続にフォーカスした活動に取り組んでいます。2023年12月には経営幹部向けの勉強会を実施し、2024年は、プロジェクトを通じて女性フィールドパーソンにおける活躍とキャリア継続における5つの課題特定と施策の方向性の合意に至りました。

女性管理職比率20%という目標に対しては、2024年度は14.5%となり、係長クラスまで範囲を広げた場合の女性比率は30.3%となっています。女性社員が活躍しやすい環境整備にもつながるとともに、採用競争力の向上や人材定着といった好循環をもたらすものであることから、継続的な検討と施策の実行を図っていきます。

人材戦略重要テーマ5: 提供価値向上への人・組織の強化

小田原人材開発センターの開設を契機としたさらなる人材への投資、グローバルでの社員研修開発プロジェクトの始動

2024年度実績

小田原人材開発センターの研修棟完成
グローバルにおける
社員研修開発プロジェクト発足

小田原人材開発センターの開設を契機に、 一生学び続ける風土づくりを

「提供価値向上への人・組織の強化」は、ミルボンにとって「美容室の増収増益」への貢献、そして「美しさを通じた心の豊かさの実現」に直結する重要なテーマであると捉えています。当社では1984年から40年にわたって、9カ月間に及ぶ新入社員研修を行うなど、「人」への惜しみない投資を重ねています。2024年12月には、当社社員が入社から定年退職まで一生学び続ける風土づくりの拠点となる、小田原人材開発センターの研修棟が完成し、2025年から次期リーダー育成を目的とした研修の実施が始まるほか、秋入社社員を対象としたフィールドパーソン研修でも活用することとなっています。

またこれを契機として、これまで以上に高付加価値を提供できる人材の育成と組織の構築を進めていくとともに、グローバルビジョンの実現へグローバルにおける社員研修を開発プロジェクトも発足しており、さらなる顧客体験価値の創造と、美容師からの支持率 No.1の獲得・継続への挑戦を続けていきます。

人と社会への取り組み - 地域社会とともに -

地域社会との連携についての考え方

ミルボンは、ミルボングループ倫理行動指針において、「責任ある社会の一員として、地域の健全な発展と快適で安全・安心な生活に資する社会貢献活動に積極的に参加・協力し、地域との共存を目指します。」と定めており、地域や教育機関との連携、及び事業活動を通じた社会貢献活動へ積極的に取り組んでいます。人々が、街が、世界がさらに美しく心豊かになることを願うとともに、いち企業市民として持続可能な社会の発展に貢献していきます。

産学連携の取り組み

関西大学における寄附講座の実施

ミルボンでは関西大学において、寄附講座「美容・化粧品学」を2020年度より実施しています。各回のテーマに即した当社の社員と関西大学の山本秀樹教授が中心となりリレー形式で講義を担当し、美容市場の製品特徴をはじめ、社会性や市場性など多面的な講義を通じて、美容の価値理解浸透に取り組み、これまでに延べ3,000名超の学生*に受講いただいています。

*2020年度から2024年度までの累計受講者数

主な講義内容

- ・美容市場概論
- ・毛髪・皮膚科学概論
- ・化粧品の適正な製造体制とその品質管理
- ・グローバル観点での美容市場ビジネス
- ・SDGsと化粧品企業—2030年にむけたサステナビリティ経営— 他



市民団体と連携した取り組み

水質調査と水辺の自然観察会の実施

ミルボンでは、三重県伊賀市周辺の地域住民及び市民団体「魚と子どものネットワーク」と協働し、木津川水系の服部川にて「水質調査と水辺の自然観察会」を開催しています。本活動は、地域の子もたちに水辺の環境へ目を向けてもらい、その保護と継承の大切さを伝えることを目的に、ミルボンが地域と取り組む水資源保全活動の一環です。今後も活動を継続し、豊かな水資源の保全と次世代の育成に取り組んでいきます。



産学官連携の取り組み

「いのちをつなぐ水と流域地球市民対話プロジェクト」への参画

ミルボンは、地域社会との共生及び水資源保全活動の推進を目的に、産学官で対話を行う「いのちをつなぐ水と流域地球市民対話プロジェクト」に参加しています。本プロジェクトでは、現在及び今後予測される世界規模での水資源枯渇問題に対して、有識者からのプレゼンテーションを通じた参加者間での知識共有を行うほか、その上で今できること、次世代へ継承していかなければならないことを産学官でパネルディスカッションしながら相互理解を深めるものです。ミルボンでは今後も地域や産学官との対話推進及び水資源をはじめとした限りある資源への保全活動へ積極的に取り組んでいきます。



人と社会への取り組み - 文化・スポーツ振興 -

文化・スポーツ振興についての考え方

ミルボンでは、美容室が人々の美しさと心豊かな社会の実現に不可欠な存在であると信じて美容師・美容室に絞った事業展開をしているとともに、文化・スポーツもまた、人の心を豊かにし平和をもたらす存在であるという確信のもと、文化・スポーツ活動の支援を行っています。

映画祭協賛・ショートフィルム配信プロジェクト

ミルボンでは2022年より、米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA)」とのコラボレーションを行っています。映画祭への参加のほか、ショートフィルム配信プロジェクト「MILBON BEAUTY MOVIES」では、世界中から厳選したショートフィルム作品のオンライン配信や上映イベントを通じて、様々な美しさに触れるひととき・心豊かになる体験を、多くの方にお届けしています。

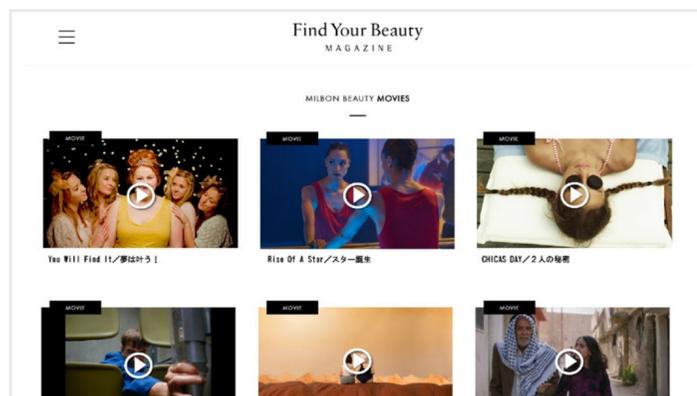
美容も映画も目に見えるものではありませんが、目には見えない「心」を感じることができるものでもあります。ミルボンでは、美容も映画もともに、人が人らしく生きていくための大切な「文化」であり、ともに「心の美しさ」・「心の豊かさ」を社会に届けていける関係であるという想いのもと、本プロジェクトに取り組んでいます。

SHORTSHORTS / SSFF & ASIA 公式サイト

<https://www.shortshorts.org/ja/>

MILBON BEAUTY MOVIES

<https://www.milbon.co.jp/fyb-magazine/movie/>



プロスポーツ選手支援

ミルボンでは2023年より、プロゴルファーの後藤未有選手・セキユウティン選手とスポンサー契約を締結いたしました。ゴルフは屋外スポーツゆえに強い紫外線などにさらされる機会も多いスポーツですが、当社の展開する製品やサービスを通じたサポートを行うことで、「活き活きと美しい生き方」を体現している選手たちを応援しています。世界No.1のグローバルプロフェッショナルメーカーを目指し挑戦し続けるミルボンは、トップへの挑戦を続けるプロスポーツ選手の方々に応援していきます。



後藤 未有 選手



セキ ユウティン 選手

Governance - ガバナンスの取り組み -

ミルボングループ 倫理行動指針

「ミルボングループ倫理行動指針」は、全世界のミルボンで働く役員・社員一人ひとりが、「ミルボンウェイ」を実践するための倫理行動指針です。ミルボンが事業活動を行う国・地域の法令や社内規則を遵守し、高い倫理観を持って業務に取り組むために、社内体制の整備や研修等を通じ社内浸透を徹底します。また、本指針について、全てのビジネスパートナーに対しても理解と共感を得て取り組んでいただけるよう積極的に働きかけ、本指針の支持と実践を期待します。

1 安全で優れた商品・サービスの提供とお客様の信頼獲得	ミルボンは、常にお客様のニーズにかなう安全なプロフェッショナル商品とサービスを開発・提供します。そして、お客様に安全かつ安心して使用していただける正しい情報を提供するとともに、お客様情報等を適切に保護・管理します。あわせてお客様からの声を真摯に受け止め、誠実に対応することでお客様の信頼獲得に努めます。
2 地域社会への貢献と共存	ミルボンは、責任ある社会の一員として、地域の健全な発展と快適で安全・安心な生活に資する社会貢献活動に積極的に参加・協力し、地域との共存を目指します。
3 環境への責任	ミルボンは、商品開発から原材料の調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までの全ての過程において、地球環境に対する責任を果たし、カーボンニュートラルと再生・循環型の生産消費活動の取り組みを推進します。
4 人権の尊重	ミルボンは、バリューチェーン全体において、人権を理解・尊重し、「ミルボングループ人権方針」を遵守します。

5 ビジネスパートナーとの公正な取引と相互発展	ミルボンは、公正なルールに則った取引関係を築き、円滑な意思疎通によりビジネスパートナーとの信頼関係を確立し、相互の発展をはかります。
6 社員の職場環境の整備	ミルボンは、社員の多様性・人格・個性を尊重し、公平な処遇を実現するとともに、社員それぞれの能力を最大限に発揮できるような安全で働き続けられる職場環境を実現します。
7 株主や投資家の理解と支持	ミルボンは、公正かつ透明性の高い企業経営により、あらゆる株主や投資家の理解と支持を得られるよう努めます。
8 政治・行政との健全な関係	ミルボンは、政治・行政との健全かつ透明な関係を保ち、癒着を絶ち、公正に活動します。
9 反社会的勢力への対処	ミルボンは、社会の秩序や安全に脅威を与えるなどの反社会的勢力・団体に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係をもちません。また、不当な要求や反社会的勢力・団体への利益供与などに関わりません。もし反社会的勢力からの接触があった場合、担当者任せにせず、組織的に対応する内部管理の徹底を図ります。



ガバナンスの取り組み - ガバナンス推進体制 -

コーポレート・ガバナンスについての考え方

ミルボンは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つと考えており、経営の透明性、公平性、効率性を高めることで企業価値の継続的な向上を目指しています。

基本方針

1 株主の権利・平等性の確保

株主の権利行使のために必要な情報を適時・的確に提供するとともに、議決権行使の環境整備に努め、実質株主を含む外国人株主、その他少数株主など様々な株主の権利・平等性の確保に努めます。

2 株主以外のステークホルダーとの適切な協働

お客様、取引先、従業員、債権者、地域社会、美容業界関係者等のステークホルダーとの適切な協働に努め、ステークホルダーの権利・立場や健全な事業活動倫理を尊重します。

3 適切な情報開示と透明性の確保

法令に基づき、四半期ごとに会社の財政状況・経営成績等の財務情報を開示するとともに、経営戦略・中期ビジョン等の非財務情報についても主体的、積極的な開示に努めます。また、これらの情報が株主との建設的な対話の基盤となることを踏まえ、その正確性や分かりやすさに最大限配慮します。

4 取締役会の責務

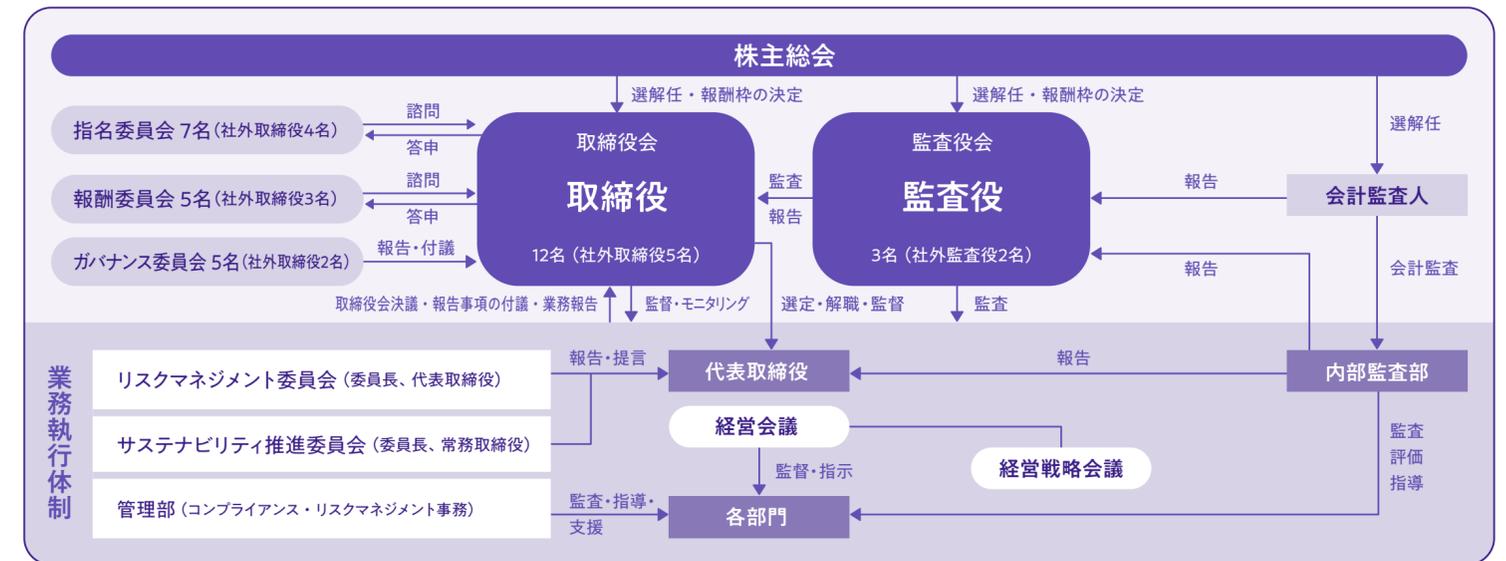
取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、当社の持続的成長と継続的な企業価値の向上、収益力や資本効率の改善を図るため、以下をはじめとする役割・責務を果たします。

- ・ 当社の経営理念、中期ビジョンを策定し当社戦略の方向性を明確に示し、遂行します。
- ・ 内部統制システム、リスク管理体制を整備し、経営陣による適切なリスクテイクを支えます。
- ・ 監査役設置会社として、独立社外監査役が過半数を占める監査役会による監査を行い、さらに独立社外取締役が過半数を占める指名委員会及び報酬委員会を任意で設置することで、独立社外役員が独立した客観的な立場から取締役に対する実効性の高い監督を行います。

5 株主との対話

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、代表取締役、財務担当取締役による様々なIR活動を行い、株主を含むステークホルダーとの建設的な対話に努めます。

ガバナンス推進体制図



取締役会・監査役会の構成



各委員会の概要及び構成

委員会名称	2025年度委員会メンバー	2024年度実施回数及び出席率	2024年度の主な議題
指名委員会	社外取締役 濱口泰三(委員長)、取締役会長 佐藤龍二、代表取締役社長 坂下秀憲、常務取締役 村井正浩、社外取締役 村田恒子、社外取締役 高藤悦弘、社外取締役 福本ともみ	2回/出席率100%	・次期経営体制及びサクセッションプランについて ・2025年度の取締役、監査役、執行役員を選任について ・2025年度の指名委員会の構成委員について
報酬委員会	社外取締役 濱口泰三(委員長)、代表取締役社長 坂下秀憲、常務取締役 村井正浩、社外取締役 高藤悦弘、社外取締役 早川知住	3回/出席率100%	・役員の報酬決定に関する方針について ・2025年度の役員報酬の水準について ・2025年度の業績連動報酬指標について
ガバナンス委員会	代表取締役社長 坂下秀憲(委員長)、取締役会長 佐藤龍二、常務取締役 村井正浩、社外取締役 高藤悦弘、社外取締役 早川知住	1回/出席率100%	・経営会議の視座向上に向けたトレーニングプログラムの推進及び監督 ・今後の経営体制の在り方に向けた議論

ガバナンスの取り組み - リスクマネジメント -

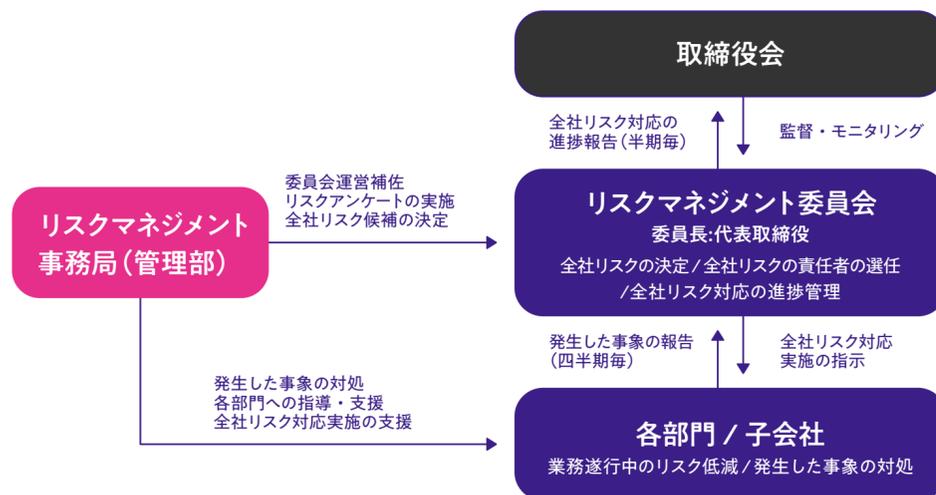
リスクマネジメントについての考え方

ミルボングループでは、経営理念の実現及び事業継続に多大なる負の影響を及ぼす事項を「リスク」と定義し、この発生可能性を低減し、リスクが顕在化し危機発生した場合の損害の拡大を防止することをリスクマネジメント基本方針と定め、リスクマネジメントの推進体制や仕組みの整備・改善に取り組んでいます。

管理体制

ミルボンでは、代表取締役社長を委員長とし、社内取締役、常勤監査役及び執行役員を委員とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、原則として年3回開催することとしています。本委員会では、当社グループを取り巻くリスクのうち、重要度と優先度、リスクの顕在化可能性や時期、中期事業構想の達成を阻害する可能性と影響度等を踏まえ、特に全社で対応を進めるべきリスクである「全社リスク」を特定し、リスクマネジメント委員会の委員の中から各全社リスクの責任者を選任し、対策を進めています。全社リスクの対応における進捗等は、リスクマネジメント委員会より、半期に一度、取締役会に報告し、同委員会が取締役会の監督・モニタリングを受ける体制を整えています。

リスクマネジメント体制図



リスクの抽出と分析

当社グループにおける重要リスクカテゴリを影響度と発生可能性でマッピングしたリスクマップについて、社内取締役、常勤監査役及び執行役員が議論を行い、改定を実施しました。2024年12月時点におけるリスク評価と全社リスクは下記の通りです。なお、リスク評価は一般的指標に基づくものではなく、当社グループにおける状況から独自に評価したものです。改定したリスクマップ及び部門長に実施したリスクアンケートに基づき、当連結会計年度末開催のリスクマネジメント委員会において決定された、「地政学」、「品質管理」、「販売戦略（特にブランド保護、当連結会計年度から継続）」の3カテゴリを2025年度全社リスクとして決定し、引き続き全社でリスク低減活動を推進していくこととしています。

当社グループ重要リスクカテゴリ リスクマップ (●:2024年度全社リスク)



影響度の目安

レベル	レベルの意味	(定量的) 売上への影響	(定性的) 影響範囲
大	重大な影響	1%以上の影響がある	社会全体
中	中程度の影響	1%未満の影響がある	業界・関係者
小	軽微な影響	ほとんど影響がない	社内のみ

発生可能性の目安

レベル	発生時期
大	1年以内に発生する可能性がある
中	3年以内に発生する可能性がある
小	5年以内に発生する可能性がある

2024年度の全社リスクにおける取り組み

1 物流コストの上昇

重要リスクカテゴリ 原材料・資材・物流コスト上昇

影響度 大 発生可能性 大

●リスク内容と影響

当社グループは、当社顧客に対して、製品の安定的な供給を持続することを目指しております。しかし、地政学的リスク、為替の変動、物流にかかる人件費の高騰等の影響により、物流費のコスト上昇が製品の安定的な供給の持続性及び既存運送体制の継続性に影響を与えている状況です。

●対応

物流業界の変化、物流費の高騰、物流量の制限等、物流に関わる様々なリスクの洗い出しと整理を行うとともに、物流ルート別の顧客ニーズや物流会社のサービスレベルを把握することで、社会情勢に合わせたサービスの最適化を進めました。当社顧客の注文回数等を分析し、可能な限り配送をまとめた場合の運用方法とコスト試算、送料の再検討を行い、それら物流網やサービスレベル、配送方法の見直しを進めるとともに、梱包資材や包装形態も工夫することによって、今後も継続して、コスト削減と環境への負荷軽減も目指していきます。

2 事業投資

重要リスクカテゴリ 事業投資 影響度 中 発生可能性 中

●リスク内容と影響

国内外における新たな事業への投資は事業の収益性や経営戦略に合致した成長投資の推進が重要ですが、新規投資判断時のプロセスが不明確であることや、投資判断時に想定していなかった市場環境や経営環境の変化により、当初計画から大きく乖離することで、減損損失が生じ、当社業績に影響を及ぼす可能性が考えられます。

●対応

企画、投資計画作成、内容審議、投資決定からその後の評価といった、新規事業への投資に関わるプロセスをフロー化するとともに、どの部門がどのプロセスに責任を持つかを明確化し、企画段階においては、事業投資時の判断項目に金額要件を追加、評価段階では投資計画から5年経過ごとに計画を見直し、投資対効果の計画値と実際値の乖離率が一定以上になった時点で投資計画自体を見直す方針などを新たに決めました。また、海外事業投資においては、進出国の様々な状況を調査し、それに合わせて投資計画を立案し、進出国個別の状況や投資対効果を分析した上で、事業継続の判断を行ってまいります。

3 ブランド保護

重要リスクカテゴリ 販売戦略 影響度 大 発生可能性 中

●リスク内容と影響

当社グループ製品の模倣品流通や契約外販路における非正規流通、当社国内向け製品が海外へ非正規に輸出されることによって輸出国及び輸出地における化粧品規制等への違反が発生し、結果的に当社ブランドや製品ブランドの価値が棄損されかねない状況です。

●対応

当社ブランド及び製品ブランドの保護を目的として、関係部門と連携しながら、美容師による対面カウンセリングを行う美容室専売品としての価値を改めて訴求するために、当社グループ社員だけではなく当社顧客やその他ステークホルダーに対しても定期的かつ効果的な情報発信を行うとともに、当社ブランド及び製品ブランドの保護に対する当社グループとして統一されたポリシーの策定や対応指針の検討を行いました。今後も継続した取り組みを行い、当社ブランド及び製品ブランドの保護を推進し、各国地域の化粧品規制を遵守した安心かつ安全な商品をお客様に届けていきます。

ガバナンスの取り組み - コンプライアンス -

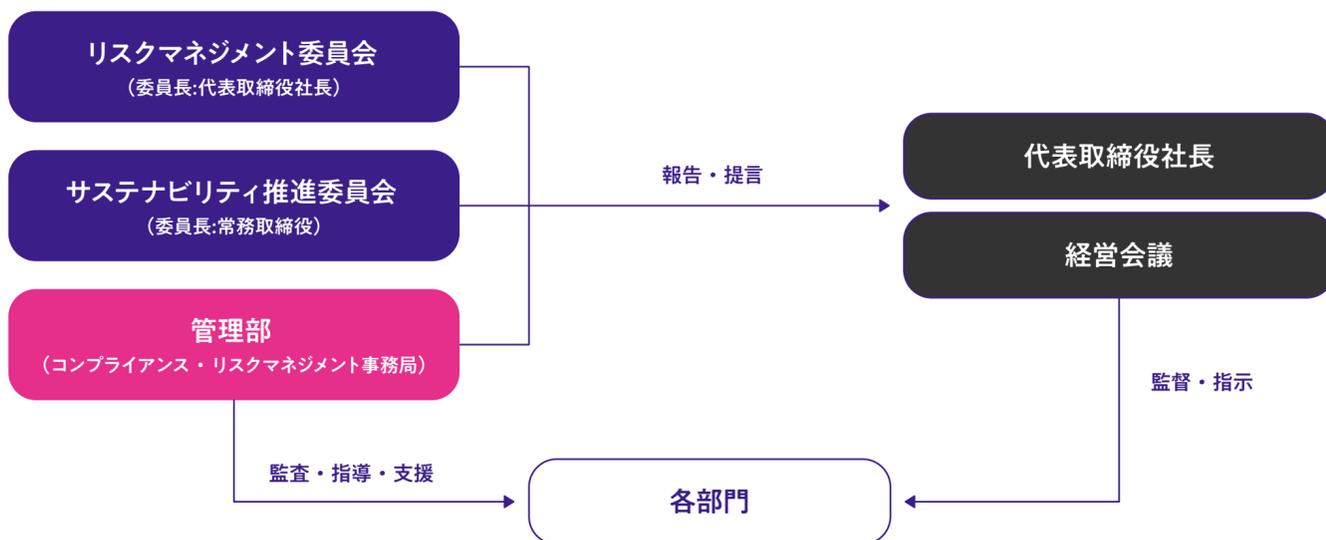
コンプライアンスについての考え方

ミルボングループ（株式会社ミルボン及びその連結子会社を含む。以下、ミルボン）の全役職員は、バリューチェーン全体において、全ての国や地域の法令を遵守し、社会倫理に適した高い倫理観を持って行動することに努めています。全役職員が、企業理念を具現化するために常に心がけておくべき指針として「ミルボンウェイ」及び「ミルボングループ倫理行動指針」を制定し、全てのステークホルダーの支持と信頼に応えていくための指針としています。

管理体制

ミルボンでは、業務に関わる法令を把握し、管理部によってその遵守状況を確認し、その結果を必要に応じて経営会議や取締役会に報告します。法令の制定・改正状況に合わせ、関係部署へその内容を研修等を通じて周知し、法令遵守に努めています。

コンプライアンス体制図



具体的な取り組み

コンプライアンス意識調査

ミルボンはコンプライアンスに関わる日常業務や職場環境等の項目について、実態調査を毎年実施しています。結果を各部門長や各子会社社長へフィードバックし、改善策のアクションシート作成と実行有無の確認を実施しています。

啓発活動

- 全社員へのコンプライアンス研修の継続実施
- 階層別・部門別の研修と勉強会の実施
- 年3回の啓発ポスターの掲示

コンプライアンス相談等の窓口設置

全ての社員が、社内の不祥事等の懸念事項について通報・相談できる「内部通報相談窓口」を設置しています。

コンプライアンスの遵守に係る個別の方針

- ミルボングループ倫理行動指針（政治・行政との健全な関係）
- 反社会的勢力に対する基本方針
- 知的財産に関する基本方針
- 個人情報保護方針（情報セキュリティ管理）
- グローバルタックスポリシー



社外取締役 レビュー

長期ビジョン達成に向け、 当社ならではのサステナビリティ推進を

ミルボンでは、事業と密接に関連するマテリアリティを設定した上で、総花的ではなく、注力すべきテーマを絞りこんで着実に推進されており、社外取締役として実際の活動を把握していく中で、本気で取り組まれていることを肌で感じてきました。また、最重要課題である「美しさを通じた心の豊かさの実現」は当社の経営理念そのものです。美しさを通じて社会を持続可能にすることが当社の持続可能性につながるという、社会への貢献と当社自身の成長の双方を目指すものになっています。

これは、当社が創業者・鴻池一郎氏の「美容師さんのために」という想いから生まれた企業であるという原点に行き着くように思います。つまり、「人の役に立ちたい」という創業以来の想いを、経営陣をはじめ全社員がDNAとして持っているからこそだと感じています。

一方で、2022年に策定した現在の重要テーマのいくつかは、すでに前倒しで目標を達成していますし、社会からの企業に対する期待や要請は設定当初から大きく変化しています。当社が新たに長期ビジョンを打ち出したタイミングであることを考えても、ここで今一度、長期ビジョン達成に向けて、次なる重要課題や活動テーマを再考する時期にあると思っています。

今後の成長においても、核となるのは当社独自のビジネスモデルであり、これを支える“人”です。社員の働きがいや人材育成は重要なテーマですし、海外事業の拡大や人口減少など中長期の環境変化の中で、ジェンダーや国籍、年齢等を含め

た多様性の推進は、これまで以上に注力すべきでしょう。お客様の多くが女性であることを踏まえれば、女性役員やさらなる女性マネジャー登用が新たな視点をもたらすことにも大いに期待できます。当社はすでに、働き方や人材育成のブラッシュアップに着手していますから、改めて、目指す姿に見える化して、社内外に共有していただきたいと思います。

環境問題への対応も、当社や美容室、そして美容市場の持続的発展のために、今後も欠かすことのできないものです。気候変動への対応に加えて、例えば、美容産業と切っても切り離せない水資源を見ても、2030年には世界人口の約半数が水不足に直面すると言われており、美容室との信頼基盤を築いている当社が美容界とともに取り組んでいくべき重要テーマです。

この取り組みを推進するのは担当部門だけではありません。経営がサステナビリティを持続的成長のドライバーへと変革する意識を持ち、これを現場と共有することによって、社員一人ひとりが、自らの業務で何ができるのかを自発的に考え、行動することができる風土を醸成していくことが、当社のサステナビリティの推進とさらなる成長をもたらすと考えています。

当社には、創業以来のDNAと、オリジナリティあるビジネスモデルがあります。だからこそ、当社にはより自由で独創的なサステナビリティとの向き合い方が実現できると期待しています。その道のりにおいて、私もこれまでの多くの試行錯誤から得た経験を当社に還元していきたいと思っています。



社外取締役
福本 ともみ氏 (ふくもと・ともみ)

サントリーホールディングス(株)執行役員などを経て、現在は(公財)サントリー芸術財団シニアアドバイザー、(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事、(公社)2025年日本国際博覧会協会理事及び大和ハウス工業(株)社外取締役、(株)東京會館社外取締役などを兼任。2024年3月より、当社社外取締役に就任。

外部評価・社会との連携

外部評価

2020年度 第20回 ポーター賞受賞



ミルボンは、一橋ビジネススクール国際企業戦略専攻が主催する「2020年度 第20回 ポーター賞」を受賞しています。1960年の創業以来、一貫して美容師・美容室に絞った事業を展開する中、1996年の上場以降、受賞時点で23期連続の増収を記録していることなど、高い収益性を維持しながら持続的成長を続けてきた事業戦略の独自性を評価いただきました。今後も美容師・美容室に絞ったビジネスモデルを維持しながら、社会視点を持ち、美を通じた豊かな社会の実現に貢献していきます。

EcoVadisサステナビリティ調査で「ゴールド」評価を獲得



ミルボンゆめが丘工場は、2022年の「シルバー」評価獲得に続き、2023年から2年連続で評価対象企業の上位5%に与えられる「ゴールド」評価を獲得しました。EcoVadis社の調査は、世界中のサプライチェーンの持続可能性を推進することを目的に「環境」「労働と人権」「持続可能な資材調達」「倫理」の4つのテーマに分類された21のCSR分析基準により、企業のサステナビリティへの取り組みを評価するものです。これまで175の国と地域、200業種、10万社を超える企業が調査対象となっています。

関連ページ：「サプライチェーンマネジメント」

ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

ミルボンは、ESG投資の世界的指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄にこの度初めて選定されたこと、同時に「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に2年連続で選定されています。

「FTSE Blossom Japan Index」「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」は、ESG（環境、社会、ガバナンス）の対応に優れた企業を選定するため、代表的なESG評価機関の一つであるFTSE Russell社が開発した指数です。FTSE Russell社の評価は、コーポレートガバナンス、健康と安全性、腐敗防止、気候変動といった分野で行われており、「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄である企業は環境、社会、ガバナンスに関する様々な基準を満たしているとされています。

ESG投資指数「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」の構成銘柄に選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

ミルボンは、米国の大手金融サービス企業であるMSCI社が開発した「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」の構成銘柄に選定されました。同銘柄はMSCI社が開発したESG指数の一つで、時価総額上位700銘柄（MSCIジャパンIMIトップ700指数）を対象に、女性管理職比率や新規採用者に占める女性比率など、性別多様性に関する開示情報をもとに優れた企業を選定するものです。

※株式会社ミルボンのMSCI指数への組入れ、及びMSCIのロゴ・商標・サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたはその関連会社による株式会社ミルボンへの後援、保証、販促に該当するものではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名称及びロゴはMSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

関連ページ：「DE&Iの推進」

ESG投資指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に選定



ミルボンは、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に選定されました。同銘柄は世界的な指数算出会社であるS&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社（S&P）と日本取引所グループ（JPX）が共同で開発したESG指数の一つであり、ESGのうちE（環境）に着目した株価指数です。東証株価指数（TOPIX）の構成銘柄を対象範囲とし、環境情報の開示状況、炭素効率性（売上高あたり炭素排出量）の水準を基に構成銘柄の組入比率が決定されています。

外部評価・社会との連携

社会との連携



国連グローバル・コンパクトへの署名

ミルボンは、国連の提唱する「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に賛同し、2020年5月に署名しました。UNGCは、企業や団体が責任あるリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組みです。ミルボンは自社のサステナビリティ基本方針に基づき、美容室・美容師の皆様とともに社会課題の解決に取り組む参加企業として「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関わるUNGCの10原則を支持し、持続的な社会の実現に貢献していきます。



「RSPO」の正会員に認定

ミルボンは、世界自然保護基金（WWF）を含む関係団体が中心となって設立した「RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）」の正会員として2022年3月に承認されました。あわせて2020年1月に持続可能なパーム油のための日本ネットワークである「JaSPON（Japan Sustainable Palm Oil Network）」へ参画し、情報交換などを行っています。

また、ゆめが丘工場は認証パーム油を使用して作られた製品を取り扱う製造・加工・流通過程で要求事項を満たしているかを認証する制度であるサプライチェーン認証（SCCS*認証）を取得しています。RSPOの進捗状況は[こちら（rspo.org）](https://rspo.org)からご確認できます。

*Supply Chain Certificate Systemの略

関連ページ：「RSPO認証パーム油の採用」



「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同 及び「TCFDコンソーシアム」へ加盟

ミルボンは、2023年1月に TCFD 提言への賛同及び国内賛同企業等による組織 TCFDコンソーシアムへの加盟を行いました。気候変動問題への対応については、当社におけるサステナビリティ「5つの最重要課題」において、重要な経営課題の1つとして捉えており、今後も環境負荷低減に向けた目標設定と取り組みの推進及びステークホルダーの皆様への積極的な情報開示を行ってまいります。

関連ページ：「気候変動への対応」



「生物多様性のための 30by30 アライアンス」に参画

ミルボンは、2023年10月10日に「生物多様性のための 30by30 アライアンス」に参画しました。同アライアンスは、2021年6月のG7サミットで合意された「G7 2030年自然協約（G7 2030 Nature Compact）」に基づき、生物多様性の損失を食い止め回復させるというゴールに向け、2030年までに陸域と海域の少なくとも30%を保全・保護することを目指し、環境省が発起人となり、企業、自治体、NPOなどが集まり設置されており、国公園の拡充や里山、企業林などをOECM*として国際データベースに登録することを促進し、その取り組みを積極的に発信することを目的としています。

ミルボンは今後も、美しさを通じた心の豊かさを提供する「美」のメーカーとして、生物多様性をもたらす社会全体の恵みや豊かさを重視し、地球環境保全への積極的な活動を行ってまいります。

*Other Effective area-based Conservation Measuresの略。民間等の取組により保全が図られている地域や、保全を目的としない管理が結果として自然環境を守ることに貢献している地域

関連ページ：「地域社会とともに」

2024 ESG DATA - Environment (環境) -

CO2

CO2(GHG)排出量 (t-CO2) ※総排出量

243,326

対前年比-10.6%

CO2排出量 Scope1 (t-CO2)

1,393

対前年比-2.0%

CO2排出量 Scope3 Cat別 (t-CO2)

Cat1 購入した製品・サービス

105,742

Cat2 資本財

4,232

Cat3 Scope1・2に含まない燃料
及びエネルギー関連活動

340

Cat4 輸送、配送（上流）

20,926

Cat5 事業から出る廃棄物

210

Cat6 出張

970

Cat7 雇用者の通勤

284

Cat11 販売した製品の使用

106,897

Cat12 販売した製品の廃棄

1,257

CO2排出量 Scope2 マーケットベース (t-CO2)

1,073

対前年比+10.3%

CO2排出量 Scope3 (t-CO2) ※総量

240,860

対前年比-10.7%

電力

電力使用量「総計」(千kWh)

7,122

対前年比+7.4%

電力使用量「購買電力」(千kWh)

7,012

対前年比+7.2%

電力使用量「自家発電」(千kWh)

110

対前年比+20.8%

電力使用量「再生可能エネルギー」(千kWh)

4,633

対前年比-4.4%

水資源

水源別取水量(m³)

上水（第三者の水源）

48,309

その他

0

放流先別排出量(m³)

下水（第三者への廃水）

28,049

その他

0

水使用量 原単位 (m³/t)

4.366

対前年比-6.5%

国の定めた取排水に関する
法令違反数 (件)

0

2024 ESG DATA - Social (人と社会) -

ダイバーシティ&インクルージョン

| 連結社員数 (人) ※正社員

1,188

| 平均年齢 (歳)

35.6

| 育児休業取得率 男性/女性 (%)

40.7 / 100

| 従業員一人あたりの教育研修時間 (時間)

73.4

| 連結社員比率 男/女 (%) ※正社員

49.8 / 50.2

| 管理職における女性比率 (%)

14.5

対前年比+3.6ポイント

| 育児休業取得者の復職率 男性/女性 (%)

100 / 93.7

| 平均勤続年数 (年)

11.1

| 有給休暇取得率 (%)

72.9

対前年比+5.1ポイント

| 従業員一人あたりの教育研修費 (円)

135,489

寄付活動

| 寄付総額 (千円)

28,567

■ Direction : Ryohei Akita (MILBON)

■ Edit : Shun Ohmi (Kuchibue Shoten), Narumi Ito (Kuchibue Shoten), Haruki Nukui (Kuchibue Shoten)

■ Art Direction : Kenta Sagae (Jetus Inc.)

■ Design : Fuyuka Takano (Jetus Inc.), Misato Nishimura (Jetus Inc.), Yoshiyuki Morishita (Jetus Inc.)

■ Photo : Marisa Shimamoto

■ Produce : Chihiro Ikeyama (GREAT WORKS)

m i l b o n